

● **日本体験学習研究所(JIEL)とは**

日本体験学習研究所(JIEL)では、1947年K.レヴィンたちにより人間関係の理解と改善のために開発された「ラボラトリー方式の体験学習」の基礎的な研究とさまざまなフィールド(学校教育、企業組織、看護医療、国際協力など)における応用実践研究を行っています。
 ラボラトリー方式の体験学習とは、「人と人が特別に設計された関わる場において、“今ここ”での参加者の体験を素材(データ)として、人間や人間関係を参加者とファシリテーターとがともに実験的に探求する学習」です(津村、2009)。
 K.レヴィンの思想を継承し、現代の社会のニーズに応えること、特に人間関係に関わる諸問題の解決とともに、人間が本来持つ可能性と潜在能力を探求し、社会の変革を目指すデザインと実践ができるファシリテーターとして私たちが活動し、研究やプログラムを提供して、さまざまなフィールドで活動する人々がそうしたファシリテーターになれるための支援をしています。
 これらの活動を通して、ラボラトリー方式の体験学習の普及と共に生きる社会の創造をめざしています。

※JIELとは、Japan Institute for Experiential Learning の略称です

● **沿革**

- 2006年 愛知県防災局の研修を受託するために任意団体として日本体験学習研究所を設立。
- 2012年 「プロセス・エデュケーションー学びを支援するファシリテーションの理論と実際」津村俊充著(金子書房)を出版。
- 2013年 「実践人間関係づくりファシリテーション」日本体験学習研究所監修(金子書房)を出版。
- 2015年 一般社団法人「日本体験学習研究所(Japan Institute for Experiential Learning: JIEL)」を設立。
- 2015年 ラーニングカフェ For Change スタート。
- 2017年 モリコロ基金助成を受け「ESD スペシャリスト育成プロジェクト」を実施。
- 2017年 「つんつんのミニレクチャー 32講」DVD 4巻セット完成。
- 2018年 「インターベンション・スキルズ：チームが動く、人が育つ、介入の理論と実践」W. ブレンダン・レディ(著)津村俊充(監訳)林芳孝・岸田美穂・岡田衣津子(訳)出版
- 2019年 JIEL WEB ページリニューアル
- 2019年 「改訂新版プロセス・エデュケーションー学びを支援するファシリテーションの理論と実際」津村俊充著(金子書房)を出版。
- 2019年 リフレクティング・グループを活用したTグループ(人間関係トレーニング)を新しく開催。
- 2020年 JIEL5周年記念大感謝祭。Tグループ体験記刊行。「ANNUAL REPORT」発行。

● **NTLとは**

1946年夏の米国コネティカット州で開かれたワークショップ後、1947年にメイン州ベセルにて全米教育協会(National Education Association)や大学のいくつかの研究機関の協力のもとで「集団発達に関するナショナル・トレーニング・ラボラトリー(National Training Laboratories in Group Development: NTLGD)」を開催したのがNTLのはじまりです。1963年まで全米教育協会の成人教育部門の教育機能を果たし、1967年にNTL Institute for Applied Behavioral Scienceと名称を変更し非営利組織として運営されてきています。
 また、ラボラトリー方式の体験学習のコアプログラムとして70年ほどの長い間、Tグループを実施してきています。そのほかに、リーダーシップ開発やジェンダーやダイバーシティにかかわるワークショップ、組織開発に関わる多数のプログラムを開催しているラボラトリー教育の歴史ある機関です。
 JIELの代表理事・所長である津村は、日本人としては初めてNTLのインターナショナルメンバーとして認定されて、日本でラボラトリー方式の体験学習の普及に努めています。



公開講座

教材開発

共に生きる社会の
創造をめざして

受託研修

コンサルティング

出版

研究会

2022-2023 プログラムガイド PROGRAM GUIDE ver.1.1

私たちのミッション
 ラボラトリー方式の体験学習を通して

- ◎ かかわり合いの中でお互いが成長できる社会
- ◎ 違いを認め、違いを活かす社会
- ◎ 自分たちの力で変えていけると実感できる社会

を創造します



一般社団法人
日本体験学習研究所

代表理事・所長：津村 俊充

〒468-0015 名古屋市天白区原 1丁目 2304
 ライオンズマンション原 102 HCC 内
 (地下鉄鶴舞線「原」駅1番出口)

電話&FAX (052) 804-1889
 e-mail desk@jiel.jp
 Website <https://www.jiel.jp>

◆地下鉄で来られる場合◆

地下鉄「原」駅の1番出口が最寄りとなります。三十三銀行のあるスクランブル交差点を右折し道なりに進み、原郵便局の先を左折したところにある、レンガ色のライオンズマンション原の1Fです。
 2番出口から出られた場合は、ファミリーマート沿いに進み、すぐに左折を直進すると原郵便局のある三叉路に出ます。



一般社団法人 **日本体験学習研究所**

ごあいさつ

2015年4月に設立以来、一般社団法人日本体験学習研究所 (Japan Institute for Experiential Learning: JIEL (ジャイエール) と略称) は、「共に生きる社会の創造をめざして」ラボラトリー方式の体験学習を中心に据えた活動をしてきました。

ラボラトリー方式の体験学習とは「特別に設計された人と人がかかわる場において、“今ここ”での参加者の体験(プロセス)を学びの素材として、体験学習の循環過程を活かして人間や人間関係を参加者とファシリテーターが共に探求する学習」です(下図参照)。

JIELでは、Tグループ(Tは、トレーニングの略)をコア・プログラムと位置づけ、下記のミッションを目指してさまざまな学びの場・講座を準備・提供しています。

ラボラトリー方式の体験学習を通して

- ◎かかわり合いの中でお互いが成長できる社会
- ◎違いを認め、違いを活かし合う社会
- ◎自分たちの力で変えていけると実感できる社会を創造します。

2022年度は、ラボラトリー方式の体験学習の原点を探求するための講座「ラボラトリー体験学習基礎講座」「Tグループ(人間関係トレーニング)」を継続的に開催し、また社会構成主義をベースに一人ひとりと大切にかかわる「ナラティブ・セラピーを学ぶワークショップ」の連載も引きつづき開講する予定です。地域の人々が日常生活での疲れや苦しみ、日頃考えていることを自由に語り合いながら光を見出せるコミュニティ「ラーニング・カフェ for CHANGE」や体験学習に関わる人々が研鑽し合える「体験学習実践研究会」なども継続します。

あわせて看護医療現場、企業・組織内教育、組織開発、コミュニティづくり、学校教育現場などからのご要望をお聞きし、ニーズを探りながら、ラボラトリー方式の体験学習の応用実践のコンサルティングも行っております。

JIELにお気軽にご相談いただくと共に、これまでと変わらずJIELの活動へのご支援を心よりお願い申し上げます。

2022年1月1日
一般社団法人 日本体験学習研究所
代表理事・所長 津村 俊充

目次

ごあいさつ・目次	p.02
JIELの主な活動	p.03
ラボラトリー体験学習基礎講座	p.04
Tグループ(人間関係トレーニング)	p.06
ナラティブ・セラピーを学ぶ	p.10
人間関係づくり入門	p.12
セルフサイエンス	p.13
共感でつながるアサーション	p.14
体験学習プログラムデザイン講座(ベーシック)	p.15
教育プログラムデザインの理論と実践	p.15
チームや組織づくり入門	p.16
AIアプローチ基礎講座	p.18
AIアプローチ応用講座	p.19
Tグループファシリテーター・トレーニング(ベーシック)	p.20
Tグループファシリテーター・トレーニング(アドバンス)	p.20
グループプロセス・コンサルテーション	p.22
コミュニティをデザインする	p.25
コミュニティ・ファシリテーションとは	p.25
コミュニティ・ファシリテーターの工具箱	p.25
プロジェクト・イシューを考える	p.25
ワークショップ・デザイン：対話の場をつくる	p.26
フィールドワーク：コミュニティ・ファシリテーションを実践する	p.26
インタープリター・トレーニング	p.27
ESDスペシャリスト育成プロジェクト	p.28
ラーニングカフェ for Change & 体験学習実践研究会 & AIアプローチ実践研究会 & ナラティブ・コル読書会	p.29
DVD教材 つんつんのミニレクチャー 32講	p.30
受託研修(コンサルテーション)	p.31
スタッフ紹介	p.32
受講申込	p.33
年間スケジュール	p.34

日本体験学習研究所(JIEL)の主な活動

◎公開講座

2021年度より、JIELの公開講座は「主体的に人生を切り開く・支援」、「生き生きとしたチームや組織づくり・支援」、「人と社会のつながりを生み出すコミュニティづくり・支援」の3本柱で構成しています。さまざまな場で、一人ひとりがもつ潜在力や可能性を活かし合える関係づくり・場づくりを支援すること、ならびに支援する人を育てることを目指します。



※2022年度の実施・開催検討中のもも含まれます

◎交流から学ぶ「研究会・学びのコミュニティ」

- ◇ラーニング・カフェ For Change
- ◇体験学習実践研究会
- ◇AIアプローチ実践研究会
- ◇ナラティブ・コル

◎受託研修「コンサルテーション」

各種団体・機関からのご依頼の目的にあった研修をデザインし実施したり、研修プログラムの内製化に向けたご相談などをお受けします。

◎機関誌

「ANNUAL REPORT」デジタル機関誌として発行。



※ラボラトリー方式の体験学習では、グループワークなど体験(実習)をした後で、話題や課題の内容や結果である「コンテンツ」よりも体験の中で起こっていた気持ちや考えたことなど「プロセス」に光をあてふりかえります。そのデータをもとにファシリテーターと共に体験学習の循環過程を通して学びを深めます。この循環過程を繰り返すことで、変化・成長の螺旋的展開が生まれると考えています。



コア・プログラム

ラボラトリー体験学習基礎講座

～プロセスから学ぶ私の人間関係～

申込
受付中

グループワーク体験を通して、コミュニケーションやチームづくりを学ぶ基礎講座

本講座は、「ラボラトリー方式の体験学習」といった参加者自身の体験を通して自分、他者、コミュニケーション、グループについて学ぶ講座、とりわけ人間関係を学ぶための基礎講座です。

従来のコミュニケーションの学びのテーマは、正確に相手の話すことを聴くことであったり、自分が伝えたいことを適切に伝えることができるかといったことでした。今日、Face to Face といった対面に限らず、さまざまなツールを使った人々との相互作用（コミュニケーション）を通して、共にリアリティを創り出し、これからの日常生活の中でいかに豊かな関係性を創ることができるかが大切なテーマになってきています。

コミュニケーションやグループ、組織の捉え方は、「こうあるべき」という枠組みをもとに、それを実現するために必要な課題を見つけ、解決していく問題解決志向のアプローチを取ることがよくあります。

その一方で、コミュニケーションや組織のあり方が多様化した現在、メンバーや関係者が話しあうことにより、既存の枠組みにとらわれない新しい関係やグループ、組織を創り出そうとする社会構成主義を意識した取り組みも大切な時代になってきています。

本講座のプログラムでは、活動の内容や成果（コンテンツ）と、関わりの中で起こる気持ちや考え（プロセス）の両方を観る視点を養い、個々人が現状への主体的な働きかけの契機・方法を見出し、望ましい関係づくりに取り組んでいけるよう支援するプログラムを提供いたします。

本講座は Zoom によるオンラインで開講します。遠隔地の方もお気軽に学びの場に参加していただければ幸いです。

<定員・参加費> (各回共通)

定員	18名
参加費	2日間通し参加 23,100円(税込) 土日どちらか1日のみ参加 14,300円(税込)
担当者	垣内 芳文 後藤 雅子 (第26回) 垣内 芳文 水野 節子 (第27回)

第26回	オンライン開催	zoom
日程	2022年6月25日(土) 9:30～17:30 2022年6月26日(日) 9:30～17:30	

第27回	オンライン開催	zoom
日程	2023年1月28日(土) 9:30～17:30 2023年1月29日(日) 9:30～17:30	

このようなことを 目指している方にお勧めします

- ・ラボラトリー方式の体験学習を基礎から学んでみたい人
- ・グループワークによる体験学習やアクティブラーニングなどのグループダイナミクスを生かした学びの場を提供しようとされている研修講師、コンサルタント、カウンセラーなど
- ・日常生活での自分の人とかかわり方を学びたい人

- ・学校教育関係者 ・企業内研修担当者 ・カウンセラー
- ・キャリアコンサルタント ・組織開発 (OD) コンサルタント
- ・人と人のつながりを創ろうとされている方 ・その他

2日間のプログラム例

1日目 9:30～17:30	
挨拶	自己紹介とチェックイン
小講義 実習1	「コンテンツとプロセス」 実施とふりかえり&インタビューとコメント
小講義 実習2	「コミュニケーションのプロセスとは」 実施とふりかえり&インタビューとコメント
小講義 実習3 小講義	「体験学習のサイクル」 実施とふりかえり&インタビューとコメント 「ジョハリの窓」
	チェックアウト

2日目 9:30～17:30	
挨拶	自己紹介とチェックイン
小講義 小講義 実習4	「リーダーシップ」 「グループプロセスのダイナミクス」 実施とふりかえり&インタビューとコメント
小講義 実習5	「グループプロセスに働きかける」 実施とふりかえり&インタビューとコメント
小講義 実習5	「グループと個人の成長・発達」 実施とふりかえり&インタビューとコメント
	チェックアウト

参加者の声

- ・「<今ここ>での参加者の体験を素材として人間や人間関係を参加者とファシリテーターとがともに探求する学習」が体験できたと思います。そしてお互いに体験を語りあうことによって、複数の体験を分かち合えたように感じます。
- ・自分が集団との関わりに関して、ここ数年苦手意識をもっていることに気づきました。一対一の対話には苦手意識がないのですが、4人以上になると頭が追いついていないかもしれないと気づきました。
- ・「変えようとするのではなく、結果として変わっていた」というスタンスは大切であること、質問の力（相手に与える影響の強さ）を感じる事ができた。
- ・行動、思考、感情と氷山モデルの説明からコルプの学習サイクルまで組織開発の基本的な部分の理解が促進された。
- ・改めて、ファシリテーターの考え方が、重要になっているということを感じた。
- ・リーダーシップの大切さ、また、考え方が理解できた。
- ・個人の内的な対話に関して、光を当てることって、日常的にほとんどないんだなと感じました。それを話していいんだという場所があるのは、自分を肯定されているような気持ちになるんだなと思いました。
- ・体験学習の理論を交えた学び、伝える伝わることの内側の整理、他の参加者個々から得る多くの学びやヒント、リフレクションの体験からなる自分の思考パターンほか、自他、理論に関する幅広い学びや気づきを得ることができました。
- ・やはり、本を読むだけでは理解は深まらないと思った。
- ・自分の人間関係上の課題について理解を深めることができた。
- ・人の行動や気持ち、願いなどをどう取り扱って対応していくのかをあらためて考えさせられました。



改訂新版 プロセス・エデュケーション ～学びを支援するファシリテーションの理論と実際～

津村 俊充 著 金子書房

- B5版並製 286頁 ● 定価 3,190円(本体 2,900円+税)
- 2019年7月10日発行 ● ISBN-13:978-4-7608-3274-3

組織・企業内の教育や組織開発に関わるコンサルタント、学校教育現場の教員、看護・医療・福祉などの領域の教育担当者をはじめリーダー、キャリアコンサルタントやカウンセラーの方々が、一人ひとりのコミュニケーション力やファシリテーション力、リーダーシップ力、など幅広く人と人がかかわり学び合い、成長し合う関係を育む場づくりのための基本的なファシリテーションの理論と実際を詳解した書籍です。改訂新版になり、体験学習の循環過程やグループプロセスの氷山図について多様な視点からの解説を行なっています。その他、グループワークの誕生からTグループの具体的な実際まで、またさまざまな体験学習のための教材とその進め方などのヒントが満載の一冊です。



コア・プログラム

Tグループ (人間関係トレーニング)

申込
受付中



私たちはグループや組織の中で生きています。それは家族であったり、会社や学校といった職場であったり、プライベートな仲間同士、地域の人たちとのつながりであったりします。“わたし”とは違うさまざまな人たちが集まって、その組織が成り立っています。違いがあるのはわかっているけど、その違いで悩んだり、苦しんだり、人を責めたりします。その違いを認め、生かしたい、互いの尊厳を大切に、信頼関係を築き上げることができたら、私たち一人ひとり、そして私たちが生きるこの社会はより幸せなものになるのではないのでしょうか。

Tグループ (Tはトレーニングの略) とは、1947年から始まった、人間理解やリーダーシップなど相互にどのように影響し合っているかなどを“今ここ”での体験を通して、参加者一人ひとりのありようやグループダイナミクスを、またリーダーシップを発揮することなどを探究する学びの場です。ラボラトリー・トレーニングとか、ラボラトリー方式の体験学習と呼ばれるのは、1947年にスタートしたTグループが、「Human Interaction Laboratory In Group Dynamics」と呼ばれたことによります。

Tグループは、狭義にはTグループ・セッションを指します。広義には、参加者全員とスタッフを含めたラーニング・コミュニティとして学び合う宿泊研修のプログラム総体をTグループと呼んでいます。広義の合宿形式のTグループ・プログラムは伝統的に以下の4つのプログラム要素を用いてデザインされます。

- ① Tグループ・セッション (対話による非構成のグループ体験)
- ② 実習教材を用いた構成的グループ体験
- ③ モデルや理論の紹介による概念化を促進するミニレクチャー
- ④ チェックリストやふりかえり用紙を用いたツールの使用



Tグループ・セッションでは、特に決められた課題や手続きはなく、参加者は自由に対話を続け、その場に生まれてくる人間関係 (プロセス) を学習の素材として探求します。その過程で、自己理解、他者理解、受容、共感、影響関係、コミュニケーションやグループダイナミクスなど、人間関係のさまざまなことに気づき学んでいくことができます。

JIEL 主催のTグループは、歴史ある哲学と学習方法を踏襲し、伝統的な5泊6日の期間の実施にこだわり、「一人ひとりを尊重し、人々とのつながりが生まれ、共に生きること」を探求するラボラトリー・トレーニングの実現をめざしています。

Tグループは、JIEL 主催のすべての公開講座のコア・プログラムです。どのプログラムよりも先にご参加されることをお勧めします。

※このトレーニングでは、各セッションでの話し合いの録音やふりかえり用紙を、グループ内での共有の学習素材とするために、同意書の提出が求められます。また、心的葛藤やストレスを経験することもありますので、現在身体的あるいは精神的な治療のための通院やカウンセリングを受けておられる方は、担当の医師やカウンセラーとご相談の上、ご承認のもとお申し込みください。ご不明な点は当研究所にご相談ください。

新しい試みのTグループ

JIEL では、「Tグループ with ナラティブ・アプローチ」と称し、新しい形のTグループを実践してきています。Tグループ (6人~9人) とリフレクティンググループ (RGと略す: 3人) の参加者を募集し、実践的冒険的に学びの場を2つのグループで創り出していく試みです。2022年は、第21回Tグループ (10月おんたけ) が該当します。

RGは、Tグループセッションのやりとりをよく聴きながら、そのやりとりが自分にどのように響いたのかを、各Tグループセッション終了後、RGのメンバーが15分ほど語り合います。その後、TグループメンバーもRGの話聴いて共鳴したことを話します。

RGのメンバーは、ナラティブ・セラピーにおけるリフレクティング・チームやアウトサイダーウィットネスの知識と経験を有する方を募集します。

<日程例>

2018年度 JIEL 第8回 Tグループ

2018年6月2日~7日開催

6月2日(土)	6月3日(日)	6月4日(月)	6月5日(火)	6月6日(水)	6月7日(木)
7:30	7:30	7:30	7:30	7:30	7:30
8:30	朝食	朝食	朝食	朝食	朝食
9:00	T2 各グループ室	T6 各グループ室	T9 各グループ室	T12 各グループ室	9:15 チェックアウト
10:15	ふりかえり用紙記入	ふりかえり用紙記入	ふりかえり用紙記入	ふりかえり用紙記入	全体会(6) 「現場に向けて」
10:30	休憩	休憩	休憩	休憩	全体会室
11:00	T3 各グループ室	T7 各グループ室	T10 各グループ室	T13 各グループ室	11:00 閉会 全体会室
12:15	ふりかえり用紙記入	ふりかえり用紙記入	ふりかえり用紙記入	ふりかえり用紙記入	12:00 昼食
12:30	昼食	昼食	昼食	昼食	13:00 解散
14:00	自由	自由	自由	自由	13:00 解散
14:30	15:00 開会 全体会(1) 「私の窓」	14:30	14:30	14:00	14:00
	15:45 全体会(2) 「少人数で分かち合う」	全体会(3) 「ハナブサ・ フィギアーズ」	全体会(4) 「私・グループの表現」	全体会(5)-1 「Tグループのふりかえり」	フォローアップで お会いしましょう! 2018年 9月9日(日) 10:00~16:00 HCCIにて (名古屋)
	16:00 休憩				
	17:15 T4 各グループ室	自由	自由	全体会(5)-2 「Tグループのふりかえり」	
	17:30 ふりかえり用紙記入				
17:30	自由				
18:00	夕食	夕食	夕食	夕食	
19:15	T1 各グループ室	T5 各グループ室	T8 各グループ室	T11 各グループ室	全体会(5)-2 (つづき) 各グループ室
20:30	ふりかえり用紙記入	ふりかえり用紙記入	ふりかえり用紙記入	ふりかえり用紙記入	
20:50	夜のつどい(1)	夜のつどい(2)	夜のつどい(3)	夜のつどい(4)	21:00 夜のつどい(5)
21:00					21:25 コミュニティアワー
21:20					22:30

グループセッション
全体セッション

参加者の声 (アンケートより)

Tグループ参加後:

- かかわりを持つことで、自分も成長できて、相手にも成長のきっかけを与えているということも気づきました。
- 自分自身が大切にしたい価値観、人と人との関係性、かかわり方の癖に気づいた。
- 人の輪にいながらの温かい感覚。人と向き合うことの難しさを学んだ。
- 様々な価値観と環境の違うメンバーと共に過ごし、そこに生まれていく温かさと思いやり、認めあえる場ができ上がっていくことを1つ1つ体験することができ、日常にもおこせるんだと思いました

Tグループフォローアップ参加後:

- 皆に会えること、ふりかえりのためにきちんと時間を取り、それを共有できることに価値が感到了。
- これからの自分について考え、言葉などで表現する機会を得られた。3か月を経てのTグループとそのつながりの大きさを実感した。他者の意見が聞け、触発されるものがあった。
- 意味づけをしていたつもりでしたが、グループでふりかえることで新たなTグループの影響に気づかされました。

Tグループは、私たちが豊かな社会生活を送るために必要な、感受性や人間関係づくりの資質を磨くことができる最良の場の1つです。キャリアコンサルタントは、個人のキャリア発達を支援する専門家であり、言い換えれば、1人ひとりのクライアントが、より充実した人生を送るための手伝いをする存在ですが、だからこそ、まずは自分自身が「人に関わる力」をしっかりと養う必要があります。多くのキャリアコンサルタント、キャリア開発支援者が参加されることを願っています。

キャリアコンサルティング技能士会 副代表幹事 文川 実



看護師は、患者・家族さん、院内外が多職種とコミュニケーションなしでは、成立しない仕事です。難しい場面も多く、現場をよくする+αはないか、とTグループに参加しました。

初めて出会う仲間と、対話し、観察し、仮説を立て、振り返りを続けました。それを続けていくことは、苦痛でもあり、驚きや発見もあり、時に楽しく、不思議な時間でした。見えてきたのは、“自分のありよう”です。気持ちや出した言葉、態度は、他者に影響を与え、自分に戻ってきます。Tグループを終え、“対応する人や集団がどのような状況か”、“私自身はどのようなか”を問い続け、Tの学びを思い出しながら、個と場と“いま、ここ”を大切に、臨床で働いています。

看護師・助産師（母性看護専門看護師）峰 博子



Tグループに出会ってから私が体験する世界が異なって見えるようになってきました。それは今までの日々変化しています。何故かと考えると、Tグループでは、自分の源に繋がって本当の声を聴き、それを表現することを徹底的にトレーニングするからだと思っています。

Tグループを初めて体験してから約1年後に大きな気づきがありました。それは私が見ている世界は私の中で創り上げているという実感を得たことです。自分の本当の感情を観察し続けると、外界の事実と自分の感情がだんだん区別できるようになるからです。そして、自分の偏った解釈の癖が分かってきます。今でも解釈にまみれていますが、徐々に理解が深まっていることを感じます。

組織開発やコーチングの仕事をしている方は、場の見立てをする時や関わる時に、自分の解釈や感情の癖を知っておくことは非常に有益だと思います。

経営コンサルタント・コーチ (ORSCC/CPCC) 黒田 俊介



Tグループでは、初対面の方達と、あらかじめ決められたテーマなどなく約1000分のセッションを共にします。私自身はこの時間を通じて、ドキドキし、わくわくし、モヤモヤし、胸が締め付けられ、時には人を攻撃する自分がいたり、その場から立ち去りたくなったり、気付けば涙をながしていたり、温かさを感じたり、そして、最後には信頼しあっていると実感する、そのような経験をしました。当時システム開発エンジニアだった私の職場での会話は、課題解決アプローチ、アウトプットや行動を指摘する／される、というものが日常的でした。人と共に時間を過ごす時、自分自身はその場その瞬間をどう感じていてどうしたいのか、また、自分も含め1人1人のことを尊重するとはどういうことなのか。Tグループでの経験は、仕事でもプライベートでも、このようなことを心から大切にしたいと改めて思うようになった大きなきっかけとなりました。

会社員・エンジニア 高橋 顕治



フリーランスへの転身を機に、以前から気になっていたTグループに参加しました。Tグループは、普段のコミュニケーションの中で実は不具合を感じていた事象を、5日間の中でぎゅっとまとめて見せてくれる場でした。他の事柄に紛れてすりどりと流れてしまうけれど、本当は少し、胸にチクリと小さなとげが残るようなコミュニケーションの経験はありませんか？この5日間は、それが濃縮されて目の前に現れたように思います。私とは何者か、目の前にいる人を思いやるとはどういうことか、いろんな考えを持つ人が場をともにするとは何か…さまざまなことを考え整理するきっかけとなりました。

場づくりをする方、人事や営業など人と接するお仕事の方、ぜひ“体験”しに来てください。これまでたくさんの研修やワークショップに参加した方ならなおさら、この体験が新しいものとして響くことと思います。

人材開発コンサルタント/ファシリテーター 谷口 ちさ



◆ 第21回Tグループ（人間関係トレーニング）

日程	2022年10月8日（土）14:00 受付 14:30 開会 5泊6日 2022年10月13日（木）15:00 解散（木曽福島駅行きシャトルバス 15:15 出発）
	Tグループ・フォローアップ 2023年1月15日（日） 10:00～16:00 ヒューマンコラボレーションセンター HCC
担当者	垣内 芳文、他
定員	10名（最低催行人数8名）
会場	(公益財団法人)おんたけ休暇村 〒397-0201 長野県木曾郡王滝村 3159-25 TEL 0264-48-2111
参加費	89,100円（税込）
滞在費	50,000円（税込・予定）(和室シングル利用：宿泊・食事・会場費含む)

◆ 第22回 Tグループ（人間関係トレーニング）

日程	2022年12月10日（土）14:00 受付 14:30 開会 5泊6日 2022年12月15日（木）13:00 解散（清里駅行きバス 13:30 出発）
	Tグループ・フォローアップ 2023年3月12日（日） 10:00～16:00 ヒューマンコラボレーションセンター HCC
担当者	鈴木 由子、他
定員	18名（最低催行人数8名）
会場	(財)KEEP 協会 清泉寮 〒407-0301 山梨県北杜市高根町清里 3545 TEL 0551-48-2111
参加費	89,100円（税込）
滞在費	79,000円（税込・予定）（ツイン利用：宿泊・食事・会場費含む） 94,000円（税込・予定）（シングル利用：宿泊・食事・会場費含む）

※宿泊型プログラムのため、上記施設にご宿泊いただけます。また、グループ体験を通じた学習のために、全日程にご参加いただく必要があります。

※滞在費は現在、施設と交渉中です。多少の変更があるかもしれません。

※感染対策のために基本はシングル利用となります。（ツイン希望の場合はご相談ください）

人間関係トレーニング 第2版 ～私を育てる教育への人間科学的アプローチ～



津村俊充・山口真人編 ナカニシヤ出版

- B5版並製 206頁
- 定価2,420円（本体2,200円＋税）
- 2005年4月1日発行

人間関係を教育・訓練する体験学習をわかりやすく解説する大ベストセラーの改訂版。自殺やひきこもりの増加など様々な問題が深刻化する中、地域社会の支援活動や学校教育における人間関係トレーニングなど、現代社会のニーズに対応



主体的に人生を切り開く・支援

ナラティブ・セラピーを学ぶ



「ナラティブ・セラピーは、カウンセリングやコミュニティワークのなかで、敬意を示し、非難しないアプローチを実践し、それによって人々をその人生の専門家として中心に据えていくのだ」(ナラティブ・セラピーって何? アリス・モーガン)

人を問題の主たる責任者であると位置づけることを拒絶し、ものごとの「本当の真実」は存在せず、ただそのことを語るストーリーが存在するという立場を取ることで、そして、その人自身に自分の人生を生き抜いていくことのできる資質、資源、能力が必ず存在しているという仮説を持っていることなどがあげられるでしょう。つまり、その人には必ずや希望があるのだという信念を持っていること、と言ってもいいでしょう。(ナラティブ・セラピーの会話術、国重浩一)

ナラティブ・セラピーでは「人間や人間関係が問題ではなく、問題が問題なのだ」という前提に立ち、セラピストがクライアント(という名称も会話の中では使わない)と対等な立場で、会話をし、相談に来られた方が問題からどのような影響を受けているのか、その影響を受けていないユニークな体験を探し、その人の生きる意味やアイデンティティを探究する過程です。

このことは、ナラティブ・セラピーとそれを取り巻く理論に、「人は自分自身の目で自分を見られない」というのがあり、自分がどういった人間かを鏡に映しているように見たかったら、他人の目を借りるしかないだろうというものです(国重浩一談)。

他者との会話を通して自分の生き方を探す旅の行程を楽しむことも可能になります。

ワークショップでは、「自分がどのような人なのか」というアイデンティティを探究する旅をしたり、旅の同伴者になるためのありようを学びたいと考えています。

◆ナラティブ・セラピーを学ぶ

テーマ	第12回 「初めて学ぶナラティブ・セラピー」	第13回 「デモセッション」	第14回 「OW&R チーム」	第15回 「再著述」	第16回 「質問術」
日程	2022年4月24日(日) 10:00 ~ 17:00	2022年6月19日(日) 10:00 ~ 17:00	2022年7月23日・ 7月24日(日) 両日とも 10:00 ~ 17:00	2022年10月23日(日) 10:00 ~ 17:00	2022年12月18日(日) 10:00 ~ 17:00
参加費	9,900円(税込)	9,900円(税込)	19,800円(税込)	9,900円(税込)	9,900円(税込)
担当者	国重 浩一				
定員	各回 30名		会場	オンライン開催 ZOOM	

国重 浩一 (日本臨床心理士、ニュージーランド・カウンセラー協会員) / ナラティブ実践協働研究センター & ダイバーシティ・カウンセリング NZ / [主著]『ナラティブ・セラピーの会話術』(金子書房)



ナラティブ・セラピーの会話術 ディスコースとエイジェンシー という視点へ

国重浩一著 金子書房
● A5 272頁
● 定価 3,630円(本体 3,300円 + 税)
● 2013年2月15日発行

ナラティブ・セラピーの理論的背景を理解するとともに、それをどのように自分の臨床場面で活用するか。日本文化の中での日本語によるナラティブ・セラピーの実際を、事例を用いながら、わかりやすく丁寧な言葉で詳述する。



新しい自分に向かう旅路 ふたつの島とボート — イラストで理解するナラティブ・セラピー —

ドナルド・マクミナミン著
国重浩一・バーナード紫訳
ナラティブ実践協働研究センター編
農文協プロダクション
● 2019年11月11日発行

本書は、かなりの手腕を問われるナラティブ・セラピーの考えや実践を、語句簡単に読みすすめることができるようにした入門書です。

第12回	「初めて学ぶナラティブ・セラピー」 2021年4月24日(日) 10:00 ~ 17:00	ナラティブ・セラピーは、相手の問題や課題をアセスメントし、その改善を目標とするようなアプローチではなく、会話という言葉のやりとりによって、新たな気づき、意味づけ、理解などが生じるように取り組むアプローチです。つまり、カウンセリングの鍵は、会話そのものとなります。このワークショップでは、ナラティブ・セラピーに触れたことがない方や、対人援助の職に就いていない方に話すつもりで、ナラティブ・セラピーの会話の特徴について説明していきます。ナラティブ・セラピーに興味のある方はどなたでも参加できます。
第13回	「デモセッション」 2021年6月19日(日) 10:00 ~ 17:00	カウンセリングは理屈から学ぶだけでなく、実際のカウンセリングの会話を見ることも大切になります。このワークショップでは、参加者からクライアント役になっていただける人を募り、午前と午後1セッションずつ、カウンセリングのデモセッションを行い、その会話をめぐって検討していきます。 もし有志が見つからない場合には、国重浩一が過去にしたカウンセリングの逐語録を利用して、カウンセリングの会話について検討します。
第14回	「OW&R チーム」 2021年7月23日(土) 2021年7月24日(日) 両日とも 10:00 ~ 17:00	家族療法に取り組んでいたノルウェーのトム・アンデルセンらは、リフレクティング・チーム(Reflecting Team)というアプローチを開発しました。この手法は、1対1のカウンセリング手法を超えて、グループで取り組むことへの可能性を開いてくれました。このアイデアを借りて、ナラティブ・セラピーのマイケル・ホワイトは、アウトサイダー・ウィットネス・チーム(Outsider Witness Team)という取り組みを提唱しました。このふたつは相反するものではなく、お互いに補完できるものであるという考えから、ナラティブ実践協働研究センターでは両方を取り入れた取り組みを「OW&R チーム」と名付けて実践しています。この2日間で、理論的な側面だけでなく、ワークを通じて、OW&R チームについて一緒に検討していきます。
第15回	「再著述」 2021年10月23日(日) 10:00 ~ 17:00	ナラティブ・セラピーでは、人々が問題の染み込んだストーリーから離れ、好ましい新たなストーリーで人生を生きていくことに取り組みます。この取り組みを再著述といいます。このワークショップでは、再著述とはどのような取り組みなのかについて解説し、マイケル・ホワイトの逐語録を参照しつつ、再著述する会話について理解を深めていきます。
第16回	「質問術」 2021年12月18日(日) 10:00 ~ 17:00	ナラティブ・セラピーの質問は、とてもユニークであり、それを使うことには抵抗感を持ってしまいます。それでも、この質問が、人の人生の物語を再著述するために、実に大切な役割を果たしています。このワークショップでは、ナラティブ・セラピーの質問に焦点を当てて検討し、さまざまなワークを通じて、理解を深めていきます。



主体的に人生を切り開く・支援

人間関係づくり入門

開催
検討中

人生 100 年時代の到来、一方でかなりのスピードで社会が変化してきているのを実感しているのではないのでしょうか。その中で、私たち一人ひとりがどのように生きていくのか、さまざまな時代やさまざまな環境の中で一人ひとりの主体性を取り戻すことが大切になってきています。一人ひとりの生き方は、人と人とのかかわりを通して生みだされているのです。私の生き方を考えるためには他者の存在は必ず必要であり、かかわりのありようを吟味する学びが大切になります。

この入門講座では、私が「人生の主人公」として、どんな自分でも、自分を大切にできる機会にしたいと考えています。「体験から学ぶ」ことを通して、「私はどんな人間なんだろう?」「私の特徴ってなんだろう?」「私は他の人へどのように影響を与えているのだろうか?」など、知っているようで実はあまり知らない「わたし」に出会う場としていきます。これからは私が「わたし」として生きていくために、自分のありようをそれぞれのワークを通して体験しながら学んでいきます。また、この場で出会った人とのかかわりから、お互いに自分を知るヒントをもらい、楽しみながら体験していただきます。

このようなことを目指している方にお勧めします

- ・ ラボラトリー方式の体験学習に興味があり体験してみたい人
- ・ 自分探しを通して、自分自身を認め、元気を取り戻したい人
- ・ 今の自分、そしてこれからを考えるために動き出したいと思っている人
- ・ 楽しみながら、自分を見つめる機会を持ちたい人
- ・ とともに語り、互いに刺激し合い、高めあいたいと思っている人

テーマ	第5回「未定」	第6回「未定」
日程	未定	未定

<定員・参加費> (各回共通)

担当者	未定	定員	未定
会場	オンライン開催	参加費	3,300円(税込)



- P.04 ラボラトリー体験学習基礎講座
- P.06 Tグループ(人間関係トレーニング)
- P.11 セルフサイエンス
- P.12 共感でつながるアサーション
- P.13 体験学習プログラムデザイン講座(ベーシック)
- P.13 教育プログラムデザインの理論と実践
- P.14 ナラティブ・セラピーを学ぶ
- P.29 体験学習実践研究会
- P.29 ナラティブ・コル



主体的に人生を切り開く・支援

セルフサイエンス

開催
検討中

セルフサイエンスは、ヒューマニスティック・サイコロジカル・エデュケーションの一つの実践です。本講座では、米国マサチューセッツ大学においてJ. ウェインシュタイン教授らが体験学習のステップとして考案したトランペットセオリーにもとづいて開発した教育実践プログラムを紹介します。

セルフサイエンスの一つの目的は、自分自身の内的・外的な反応(感情・思考・行動)を学習者が内省・観察し、自分の対人行動パターンを見つけ出すことです。そして、その行動パターンを吟味することを通して新しい対人行動のレパートリーを広げていこうとすることがもう一つの目的です。

そのために、この講座では次のようなプログラムを体験し学んでもらいます。

本講座の前半では、「セルフサイエンス」コースの導入の小講義から始まり、トランペットモデルを紹介します。そして、「TA(トランザクショナル・アナリシス:交流分析)の自我状態の小講義から、自分の中にある「親の自我状態」「成人の自我状態」「子どもの自我状態」を理解します。ホームワークとして、「自分の行動パターン」を見つけて、特定のフォーマットに書き出してくることが課題になります。

本講座の後半は、アシストグループをつくり、その仲間たちと自分の行動パターンを明確にし、そのパターンの機能を探求します。そして、そのパターンがもっているクラッシュャーを同定し、そのクラッシュャーと相反する再方向付けを考え行動のプランを立てます。

講座の最終回では、参加者一人ひとりが考えた行動計画の実践評価を行います。

このようなことを目指している方にお勧めします

- ・ 日常生活で自分がどのように人とかかわっているかを探求してみたい人
- ・ 日常生活での人とのかかわり方を見直したい人
- ・ いつもやってしまうと思う行動パターンから抜け出したい人
- ・ 体験学習の「指摘」「意識化」「仮説化」を、とりわけ「分析」のステップをもう少しクリアーにしたい人
- ・ 自分と真剣に対峙してみたい人など

※参考テキストとして、「プロセス・エデュケーション〜学びを促進するファシリテーションの理論と実際〜」第5章「自己成長のセルフサイエンス」津村俊充著(金子書房)をおすすめします。

◆第5回セルフサイエンス

日程	未定	未定
担当者	未定	
定員	未定	
会場	オンライン開催	
参加費	受講料:未定(税込)	





主体的に人生を切り開く・支援

共感でつながるアサーション ～感情とニーズに寄り添う自己表現～

開催
検討中

この講座ではアサーション（自己表現）の方法として、マーシャル・B・ローゼンハグ博士による NVC (Nonviolent Communication) の考え方を学び、グループでの演習を通じて自分や他者の感情に注目し、その背景にあるお互いが必要とするもの（ニーズ）を尊重しあえるような問いかけや応答、語りを試みます。

感情に寄り添い、必要としていること（ニーズ）に気づいたときに人はつながりを実感できます。自分とつながり、他者ともつながるための表現を体験から学び合きましょう。

2日間を通じて、感情に向き合い、自分自身と対話したり、他者のニーズを推測して確認したりすることから、その人が感じていること、必要としていることを共に感じよう、知ろうとする共感的な働きかけを体験できます。

このようなつながりを生み出す働きかけの媒介になるのは、主に言葉であり言語表現を通じて自分や他者の捉え方が次第にクリアになっていきます。

このようなことを目指している方にお勧めします

- NVCを学びたい人
- 「感情」の動きに関心のある人
- 攻撃的なコミュニケーション、反射的なコミュニケーションを回避したい人
- 言葉の背景にある真意を表現したい人
- 共感的に理解しあえる人間関係を築きたい人など

◆第6回共感でつながるアサーション

日程	未定
担当者	未定
定員	未定
会場	未定
参加費	未定



参加者の声（アンケートより）

- NVCを知ることができて、人をさらに好きになれそうだなと思いましたコミュニケーションは難しいけれど、貴いものだなあと新しい肝ができました。
- 感情、行動の奥深いところには、何かがあるのか、モヤモヤとしていたので、それがニーズというものであることがわかり、すっきりした。
- 自分の心の中を自分で見ることができた気がする。相手に心から共感することができた。
- 自分の気持ちに気づきにくいことが悩みで、もどかしく、自分に正直でないと感じていましたが、自分との向き合い方を学んだことで、これからは気づいていけそうです。



主体的に人生を切り開く・支援

体験学習プログラムデザイン講座 (ベーシック)

開催
検討中

グループワークなど体験を通して学びを深めていく学習は、学校教育だけでなく、企業研修はじめ看護医療の現場など幅広い領域で大切な学び方です。

教育目標を、ベンジャミン・ブルーム(1956)は、3つの目標として分類しています。それらは、認知的領域(cognitive domain)、情意的領域(affective domain)、精神運動的領域(psychomotor domain)の領域と呼んでいます。

いわゆる座学としての学習は、どうしても認知的領域の学習には効果を挙げることができませんが、運動的領域であるスキル(コミュニケーションのスキル、チームづくりをするスキル、広くは種々の機器を操作するスキル)は、具体的な体験から学ぶことが最適ですし、それらの体験を通して、価値や態度に光があたりそれらの価値や態度を身につけることができるのも、多くは体験を通しての学習と言えるでしょう。

そうした体験を通して学ぶ学び方の一つとして「ラボラトリー体験学習」が上げられます。ラボラトリー体験学習の実践場面では、①集中的な対話によるグループ体験(Tグループ)、②実習教材を用いた構成的グループ体験、③モデルや理論の紹介による概念化を促進するミニレクチャー、④チェックリストやふりかえり用紙を用いたツールの使用の4種を組み合わせながらプログラムをデザインしていきます。

本講座では、②実習教材を用いた構成的グループ体験を行うファシリテーションのありようを学ぶことをねらいにしています。

◆第3回体験学習プログラムデザイン講座(ベーシック)

日程	未定
担当者	未定
定員	未定
会場	未定
参加費	未定

このようなことを 目指している方にお勧めします

- まざまな領域で、体験から学ぶことを取り入れた教育や研修を用いて、チームづくりやコミュニケーションなどを学ぶプログラムを実践している方、またこれから実践していこうと考えている方
- グループダイナミクスを生かしたグループとの関わりや働きかけを学びたい人日常生活での自分の人とのかわり方を学びたい人
- 体験学習のプログラムづくりや実践をしたい人
- キャリアコンサルタント ・カウンセラー ・コーチ
- 学校教育関係者 ・企業研修担当者
- グループを扱っている方 その他



主体的に人生を切り開く・支援

教育プログラムデザインの理論と実践

本講座では、米国 NTL Institute で提供されている「ラボラトリー体験学習」「ラボラトリー教育」の文献を読みながら、教育プログラムデザインの基本的な考え方などを提供したいと考えています。

そして、参加者の中から事前にご自身が取り組まれている実践プログラムを準備していただき、そのプログラムを紹介していただくことを通して、教育プログラムのデザインと実践において留意するとよいことを参加者と共に吟味することをしたいと思います。

本講座は、体験学習を用いた研修などの教育プログラムをデザインし、実践されている方や実践をしようと考えている方を対象としています。

◆第3回教育プログラムデザインの理論と実践

日程	未定
担当者	未定
定員	未定
会場	未定
参加費	未定



生き生きとしたチームや組織づくり・支援

チームや組織づくり入門

開催
検討中

当講座は自身が所属する組織に、または外部から「組織に関わり、支援する」ということに向き合い、学ぶ入門講座です。社会環境の急速な変化に伴い、働く人の多様化、仕事の複雑化、生産の迅速化への対応など企業組織にも変化が求められてきています。その中であって、チームや組織で働く人々がいかに生き生きと働き、アイデアなどを創発し合う、自由かつ自律的に動き出すチームや組織づくりを実現のために、いかにそれを促進するかを学ぶことがあらゆる組織・チームにとって急務になってきています。

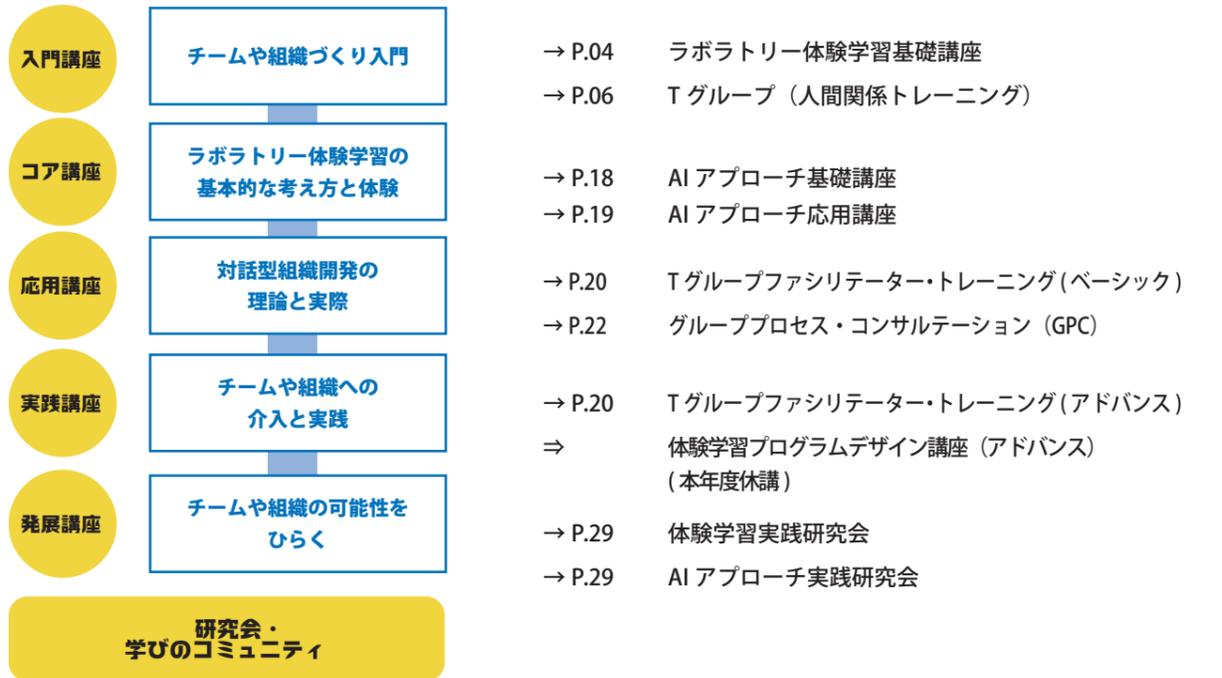
チームや組織づくりは、実践者として組織やチームのメンバーと関わり、関係を作りながら取り組んでいくことになります。支援者としてどのようにチームや組織の入り口に立つのか、実践者としての在りようや関わり方について、組織支援の現場の実際のケースを含むディスカッションや対話プログラムを通じてともに探求します。

**このようなことを目指している方に
お勧めします**

- 内部実践者として、または外部支援者として組織開発に関わる人、関わりたいと思っている人
- 「組織を支援するとは何か？」の手のかりや新たな視点を得たい人
- 支援者としての自己を見つめたり、更に深く学びたいと思っている人

◆ チームや組織づくり入門

テーマ	未定	未定
日程	未定	未定
担当者	未定	未定
定員	未定	
会場	未定	参加費 未定



私たちが目指す人間関係づくりトレーニングとは 問題解決型アプローチから対話型アプローチへ

私は1979年にTグループと出会いました。以来、グループでメンバーが問題(課題)となる関わり方を指摘され、それを意識し、周りもそれに対してフィードバックを重ね、当のメンバーがその問題の改善に取り組み、セッションを重ねる中でそれを克服できていることを承認し合うといった場面をよく見てきました。今もなおそうした場面は生まれています。それは個人が成長するためにとって大切な体験であり、学びになっているだろうと思います。そうした中で、私は自分の中に違和感というか、そうはありたくない、いやそうはできない自分を意識するようになりました。

多くの参加者はいろいろな(職業)経験を積みながら、自分の他者との関わり方のクセのようなものを身につけてきており、そのクセをグループの中で気づき、学び直すチャンスにTグループはなっているのだらうと思います。このことを否定はしません。ただ、参加者の主体的・自発的な営みとしてそのことが実現できると思うのですが、ともすればトレーナー(ファシリテーター)の鋭い指摘により問題点が浮き彫りにされ、当のメンバーが受け入れることに困難を感じたり、グループのメンバーの中で受け入れている“フリ”をして過ごしてしまうことが起きている、ということをお知らせしました。

長年のTグループトレーニングを通して、メンバー相互交流(会話)によって人と人がかかわるグループの中で、その人のさまざまなありようが現れることや一人ひとりの変化や成長の可能性を実感してきています。古くは、K.レヴィンも、個人の行動は、その人のパーソナリティだけでなく、環境要因との関数であると述べています。

この考えをサポートしてくれるのは、「社会構成主義」の考え方だと思います。社会構成主義では、「真実とは1つである」、「正しいことが1つある」、「個人が何かを持っている」ということを否定します。会話を通して、お互いの関係の中で個人やグループに関するリアリティが生まれてくると考えています。

「社会構成主義」をベースに誕生している「AI(アプリシエイティブ・インクワイアリ)アプローチ」では、欠点や問題点に光をあてるよりも、その人には、またグループや組織には必ず「イキイキと生きられる源(ポジティブ・コア)」をもっていると考えます。メンバー間

の問いかけを通して「ポジティブ・コア」を見つけ出し、個人やグループがイメージできる未来像を明確にし、その未来像に向かうエネルギーがモチベーションを引き起こし、さらに変革への継続性にも強く影響を与える、とします。今日ではAIアプローチは、対話型のODの一つとしても紹介されています。私はAIアプローチの精神が大切だと考えています。

AIアプローチでは「ポジティブ・コア」を見つけ出していきますが、その際私たちに探求の哲学と方法を教えてくれるのがナラティブ・アプローチです。

ナラティブ・アプローチの哲学も、社会構成主義の考え方をベースにしており、AIアプローチで大切にしたいと考えている人間観と重なります。ナラティブ・アプローチでは、「人を問題の主たる責任者であると位置づけることを拒絶し、ものごとの『本当の真実』は存在せず、ただそのことを語るストーリーが存在するという立場を取ることで、そして、その人自身に自分の人生を生き抜いていくことのできる資質、資源、能力が必ずや存在しているという仮説を持っていることなどがあげられるでしょう。つまり、その人には必ずや希望があるのだという信念を持っている」と国重(2013)は記しています。

一人ひとりのもつ人生を生き抜くために必要な人生を支えてくれるリソース(アイデンティティ)を見つけ出すナラティブ・アプローチは、Tグループという小世界において、一人ひとりが違いを認め合いながら、グループ(コミュニティ)として共に生きる世界を創造していくことを可能にする支えになります。メンバーもトレーナーも対等・公平な立場で共に取り組むことを通して、共に生きる社会の創造に向けて何が大切かを学ぶ場が生まれる、と私は考えます。

JIELでは、「社会構成主義」をベースとしたラボラトリー方式の体験学習のコアプログラムである「Tグループ」と共に、「AIアプローチ」や「ナラティブ・アプローチ」を深く学ぶことができる場を提供しています。

一般社団法人日本体験学習研究所
代表・理事 津村 俊亮



生き生きとしたチームや組織づくり・支援

AIアプローチ基礎講座 4Dサイクルを体験し学ぶ

開催
検討中

Appreciative Inquiry(AI)とは、個人、グループ、組織といったシステムの中に現在もっている「生き生き輝くエネルギーを与える力(Life-giving forces)(ポジティブ・コア)を見つけ出すことから始め、個人、グループ、組織の変革をめざすアプローチです。ポジティブ・コアを探求し、そのポジティブ・コアが最大化された未来(夢)を描き、その実現に向けてメンバー相互に協働的なかかわりが生まれる、参加型のアプローチです。

この講座では、AIとはどのようなものを体験を通して学ぶとともに、参加者みなさんが現場でどのように活かしているか探っていきたくて考えています。特に、できる限り、4Dサイクルを体験する生の現場に、講座の場になることを願っています。そのために、学びが持続する学習共同体(ラーニングコミュニティ)を創りたいという意思のある方にお集まりいただきたいと思っています。合宿研修で行いますので、参加者同士の交流も深まる得がたい機会になるでしょう。

また、これまでの本講座に参加されたみなさまは、その後もAIアプローチ実践研究会として学びの場を継続しています。

おおまかなプログラムの流れ

一日目		二日目	
13:00	受付	9:00	DREAM(1) 最高の未来像のインタビュー
13:30	開会		DREAM(2) コミュニティの未来を表現
15:30	DISCOVERY(1) ハイポイントインタビュー	12:00	DREAM(3) プレゼン&全体で共有
	DISCOVERY(2) ストーリーの共有		昼食
18:00	夕食	13:00	DESIGN(1) エレメントの探究
19:00	DISCOVERY(3) 私たちのポジティブコアの探求		DESIGN(2) 喚起的声明文の作成
			DESTINY 声明文を創ったグループでプロジェクトを考える
			全体のふりかえり
		16:00	閉会

※本講座の理解を深めるため、参加に際してコアプログラムであるTグループ(人間関係トレーニング)を受講されておかれることをおすすめします。

参考テキストを挙げておきます。

※ポジティブ・チェンジ 主体性と組織力を高めるAI

ダイアナ・ホイットニー&アマンダ・トロステンブルーム(著) 高間邦男(監訳)ヒューマンバリュー(2006)

※AI「最高の瞬間」を引き出す組織開発 未来志向の“問いかけ”が会社を救う

デビッド・L・クーパーライダー&ダイアナ・ホイットニー(著)本間正人(監訳)PHP研究所(2006)

◆第10回AIアプローチ基礎講座

日程	未定
担当者	未定
定員	未定
会場	未定
参加費	未定
滞在費	未定

※参加者のコミュニティづくりを目指したグループワーク体験による学習のために、全日程にご参加いただく必要があります。

※滞在費は、参加者数により変動する可能性があります。

参加者の声(アンケートより)

- AIの一連の体験・体感ができ、新しい出会い、つながりができた。
- AIの構造や進め方というより本当の部分がわかった気がします。
- AIの知識、体験のみならず、たくさんの方の価値観や思いに触れられた。
- 勉強したというより、人生経験を高めることができたという感じ。

生き生きとしたチームや組織づくり・支援



AIアプローチ応用講座 アプリシエイティブ・リーダーシップを学ぶ

開催
検討中

本講座はJIEL主催のAIアプローチ基礎講座に参加された方を対象にしたアドバンス講座です。

津村が2016年より実施している東京女子医科大学の看護師対象とした「AIアプローチ」の考えを導入した3泊4日のリーダーシップ研修のプログラムをベースにアプリシエイティブ・リーダーシップについて紹介しながら、アプリシエイティブ・リーダーシップ養成のプログラムをナラティブ・セラピーの考え方や手法と重ねながら体験して学びます。

おおまかなプログラムの流れ

1日目		2日目		3日目	
午前	開会 ねらいの明確化と共有化 「私の窓」	午前	東京女子医科大学のプログラムの紹介 小講義「グループプロセスを観る」 実習「POPO」① リフレクティング・トーク	午前	組織実習「グリーティングカード」
午後	小講義「AIアプローチのレビュー」 小講義「アプリシエイティブ・リーダーシップとは」 実習「リフレクティング・チーム」	午後	実習「POPO」② リフレクティング・トーク 実習「私のポジティブ・コアの探究」 実習「グループのポジティブ・コアの探究」	午後	現場に向けて 現場での活用を考える 閉会
夜	小講義「ナラティブ・アプローチとは」 AIアプローチとナラティブ・アプローチの重なり	夜	実習「アプリシエイティブ・リーダーとして活躍している未来像の探究」		

ご参加に際し、ご自身の現場でのリーダーとしての課題や問題をもってきていただくことをお願いします。参考テキストは、下記の書籍です。前もってお読みいただくことも、学びを促進することになると思います。

※なぜ、あのリーダーの職場は明るいのか?—ポジティブ・パワーを引き出す5つの思考法 単行本(ソフトカバー)ダイアナ・ホイットニー(著),アマンダ・トロステンブルーム(著)日本経済新聞出版社

◆第7回AIアプローチ応用講座

日程	未定
担当者	未定
定員	未定
会場	未定
参加費	未定

※本講座は、AIアプローチ基礎講座に参加されていることを参加の基礎資格とさせていただきます。

参加者の声(アンケートより)

- AIの講座も良かったが、アプリシエイティブリーダーを育てていく方が組織を変えていくのには効果的だった。
- 言葉が未来を創ることをあらためて確認できた。
- ペアインタビューからはじめてPOPO、チーム診断、新しい実習「グリーティングカード」と盛りだくさんの内容の1つ1つに今の自分を「ふりかえる」ことができて、意味があった。
- AIの課題、自分の傾向など、起きていることに実際に向き合えた。
- アプリシエイティブ・リーダーシップ講座の仕組み、鍵になるポイント、難しいパートがわかった。

生き生きとしたチームや組織づくり・支援



Tグループファシリテーター・トレーニング (ベーシック)

開催
検討中

本講座は、Tグループ(5泊6日)の参加経験のある方を対象とした、Tグループファシリテーター(トレーナー)の紹介とありようを学ぶ講座です。

参加者がTグループファシリテーター(トレーナー)、オブザーバー、参加者の役割を交互にとり、トレーナーの介入(関わり方)を巡ってふりかえりをしながら、Tグループ体験を積み重ねていきます。グループメンバーとトレーニングスタッフが全員でトレーナーの介入を吟味します。また、レクチャーセッションも朝夕に行い、Tグループや介入にかかわる視点も諸モデルから学びます。グループに働きかける視点や介入の言葉かけのレパートリーを広げると共に、トレーナーとしてのありようを学びます。

◆第9回 T of T (ベーシック講座)

日程	未定
担当者	未定
定員	未定
会場	未定
参加費	未定
滞在費	未定

※本講座は、5泊6日のTグループ(人間関係トレーニング)に参加されていることを参加の基礎資格とさせていただきます。



生き生きとしたチームや組織づくり Tグループファシリテーター・ トレーニング (アドバンス)

開催
検討中

ベーシック講座に参加された方を対象に開催します。リフレクティング・グループを活用して、グループへの関わり方の軸となるものを参加者と共に探求します。ベーシック講座と同様に、トレーナー、オブザーバー、参加者の役割を交互にとりながらセッションを進めます。ただ、ふりかえりのセッションで、二人のトレーナー役のメンバーにそれぞれ半数のメンバーが割り当てられたトレーナーの介入に対してリフレクティング・グループとして、自分自身が影響を受けたり学んだりしたことを語ります。それらを、聞くことを通して、トレーナー役の人が何を大切にグループやメンバーと関わっていたかを深く内省することから学ぶことをねらいとした講座です。

◆第3回 T of T (アドバンス講座)

日程	未定
担当者	未定
定員	未定
会場	未定
参加費	未定
滞在費	未定

※本講座は、Tグループファシリテーター・トレーニング(ベーシック講座)に参加されていることを参加の基礎資格とさせていただきます。

2018年度 JIEL第4回Tグループファシリテーター/トレーニング(ベーシック)

<日程例>

2018年12月8日~12日開催

	12月8日(土)	12月9日(日)	12月10日(月)	12月11日(火)	12月12日(水)
7:30		朝食	7:30 朝食	7:30 朝食	7:30 朝食
8:30		モーニングセッション①	8:30 モーニングセッション②	8:30 モーニングセッション③	9:00 モーニングセッション④
9:00		全体会(2)	9:00 全体会(3)	9:00 TTS7	9:30 全体会(5-1)
9:30		TTS2	「あなたなら どうする？」	9:50 全体会(4-1)	「気づき・学びを用いた モデルづくり」
10:20		ふりかえり用紙記入		10:20 全体会(4-2)	
10:40		フィードバック・タイム		11:20 全体会(6)	
11:40		フィードバック・タイム		14:00 全体会(6)	
12:00		昼食	12:00 昼食	12:00 昼食	12:00 昼食
13:00		自由	13:00 自由	13:00 自由	13:00 自由
13:30		自由	13:30 自由	13:30 自由	13:30 自由
14:00			14:00 全体会(3)	14:00 TTS8	14:00 全体会(5-2)
14:30	受付		「グループダイナミクス への働きかけについて」	14:20 全体会(4-1)	14:00 全体会(6)
	開会			「全体のふりかえり」	「現場に向けて」
	全体会(1)		15:00 TTS3	15:50 全体会(4-2)	
	「ねらいづくり」		15:50 TTS5	16:30 全体会(4-2)	
	「TTSの進め方」		16:20 全体会(4-2)	「全体のふりかえり」	
	「役割決め」		16:20 全体会(4-2)	「全体のふりかえり」	
	夕食		17:20 全体会(4-2)	「全体のふりかえり」	
18:00		休憩	17:20 全体会(4-2)	「全体のふりかえり」	
19:15		夕食	18:00 全体会(4-2)	「全体のふりかえり」	
19:15	TTS1	TTS4	19:15 TTS6	19:15 全体会(4-2)	
20:05	ふりかえり用紙記入	ふりかえり用紙記入	20:05 全体会(4-2)	「全体のふりかえり」	
20:25	フィードバック・タイム	フィードバック・タイム	20:05 全体会(4-2)	「全体のふりかえり」	
21:30	ナイトショートセッション①	ナイトショートセッション②	20:25 全体会(4-2)	「全体のふりかえり」	
21:50	ジャーナル記入	ジャーナル記入	21:30 ナイトショートセッション③	「全体のふりかえり」	
			21:50 ナイトショートセッション④	「全体のふりかえり」	
			21:00 ナイトショートセッション④	「全体のふりかえり」	
			21:20 コミュニティアワー	「全体のふりかえり」	

※TTSとは、「トレーナー・トレーニング・セッション」の略称です。TTSではTグループを行い、メンバー、トレーナー、オブザーバーを相互に体験し、ふりかえり用紙の記入とフィードバックを行います。

※このトレーニングでは、グループでの話し合いの録音やふりかえり用紙を、グループ内での共有の学習の素材とするための同意書の提出が求められます。また、心的葛藤やストレスを経験することもありますので、現在身体的あるいは精神的な治療のための通院やカウンセリングを受けておられる方は、担当の医師やカウンセラーとご相談の上、ご了承のもとお申し込みください。ご不明な点は当研究所にご相談ください。

参加者の声 (アンケートより)

- ・自分のグループへのかかわり方を通じて、自分の人間関係へのアプローチに気づかされる経験を得ました。Tグループに対する経験値が異なる方がいたのも良かったです。
- ・メンバー同士で学び、プログラムからも学び、清里の自然にも教えてもらい、最高の体験でした。
- ・人と真剣に関わること=人を信じることを確認することができました。日常では、薄らいでいく、自分の核を磨くことを続けたい。
- ・トレーナーとしての視点は、Tグループ以外のあらゆるトレーニングに応用できると感じたのでとても有意義だった。
- ・ファシリテーターの技術としても、自己理解という意味でも学ぶことが多かった。



生き生きとしたチームや組織づくり・支援

グループプロセス・コンサルテーション

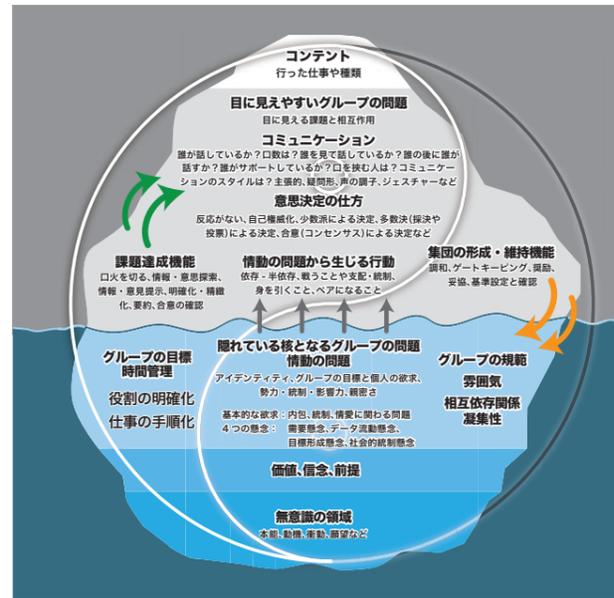
開催
検討中

従来の階層構造的な組織運営の中では、指揮命令を明確にすること—それに従うメンバー（従業員）を育てることで、仕事の効率化や業績向上を目指してきました。しかし、今日激しい社会変動に伴い、そうした構造での組織では健全に機能しなくなり、現場で働く一人ひとりのメンバー（従業員）のもつ情報やアイデアなどを生かしたコミュニケーションを豊かにし、クリエイティビティ（創造性）が高まる創発グループのマネジメントが求められています。いわゆる自立型組織です。自立し学習を続ける組織やチームを育てることが重要であり、そのためには、グループプロセスに着眼してそれに気づき相互に働きかけることができるように支援するグループプロセス・コンサルタントの働きかけが鍵になります。

この講座では、チーム活動のメンバーとは異なるメンバー（部外者）として、チームに関わり、チームの誕生から課題遂行段階においてグループプロセスに働きかける介入とコンサルタント（ファシリテーター）のありようを学ぶことを目指しています。

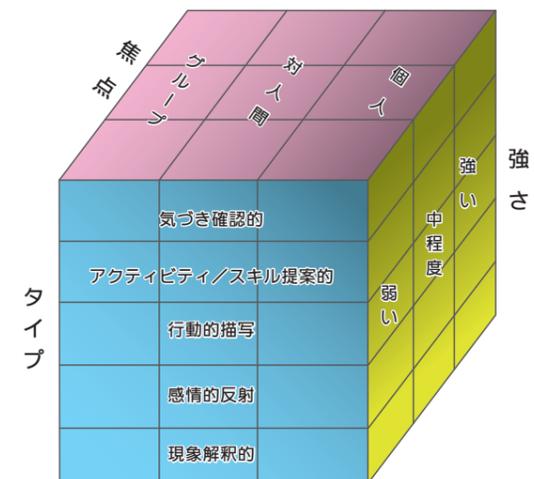
ねらいとしては下記のようなことを考えています。

- チームの中での人間関係（グループプロセス）を親る視点をもつとともに、実際に気づくことができる感受性を高める。とりわけ、タスクプロセスとメンテナンスプロセスの理解と働きかけに焦点を当てる。
- チームや他のメンバーに与えている自分の影響に気づく。
- チームやメンバーの成長に向けて働きかける視点やスキルを養う。



グループプロセスのダイナミクス冰山図
(W.B. レディとE. シャインを参考に津村が作成)

※ W. Brendan Reddy 著「INTERVENTION SKILLS: Process Consultation for Small Groups and Teams」をテキストとして使用します。
※ 本講座の参加に際して、JIEL 主催のTグループやラボラトリー体験学習の基礎講座を修了されていることが望ましいと考えています。



介入の立方体
W.B. レディ (1994) より作成

インターベンション・スキルズ： ～チームが動く、人が育つ、介入の理論と実践～



W. ブレンダン・レディ 著
津村俊充監訳 / 林芳孝・岸田美穂・岡田衣津子訳
金子書房 B5 並製 200 頁
定価 3,080 円 (本体 2,800 円 + 税)
2018 年 9 月 10 日発行

小グループやチームにおける働きかけを扱う。どのような働きかけが必要かを的確に説明した、理論的かつ実践的な必読の基本書。

2018年度 JIEL 第 4 回グループプロセスコンサルティング講座

<日程例>

2018年11月23日～27日開催

	11月23日 (金・祝)	11月24日 (土)	11月25日 (日)	11月26日 (月)	11月27日 (火)
9:30	受付	朝食	朝食	朝食	朝食
10:00	開会・導入 実習「わたしの窓」 小講義「コンテンツとプロセス」 私のねらい	GP:02	GP:05	GP:08	準備 プレゼンテーション 休憩 実習「プロジェクトグループの深さ」
12:00	昼食	昼食	昼食	昼食	昼食
13:15	私のねらいの共有	実習「介入のタイプ」	実習「グループダイナミクスと介入の深さ」	GP:09	プロジェクトグループの歴史(続き) グループメンバーへのフィードバック 実習「学びの拾い出し」
13:50	小講義「GPCとは(1)」 実習「ブロックモデル」				
14:45	休憩&チェックイン ふりかえり・分かち合い	GP:03	GP:06	GP:10	
15:45	インタビュー 小講義「GPCとは(2)」 実習「口頭の契約」 グループプロジェクトの説明 GPC&Obの順番ぎめ				16:00 閉会
18:00	夕食	夕食	夕食	夕食	
19:15	GP:01	GP:04	GP:07	GP準備つづき	
21:45	ジャーナル	ジャーナル	ジャーナル	コミュニティアワー	
		22:00	22:00	ジャーナル	

◆ 第 8 回グループプロセス・コンサルテーション

日程	未定
担当者	未定
定員	未定
会場	未定
参加費	未定
滞在費	未定

※宿泊型プログラムのため、上記施設にご宿泊いただけます。また、グループ体験を通じた学習のために、全日程にご参加いただく必要があります。

参加者の声 (アンケートより)

- ・ グループがどのように成長していくのか、それに自分はどう貢献できるのか考えることができた。
- ・ コンサルタントとしての関わりと、メンバーとしての関わりについて、自分の選択肢が増えたと、プロセスの変化を感じることができた。
- ・ 改めて日頃のファシリテーション場面をふりかえり、検討するためのデータを多く得られた。
- ・ 前回のグループプロセス・ファシリテーター・トレーニングから引き続いてきたことやその他の疑問や違和感が、スルスルとつながって、パズルのように見えたこともあり、よかった。
- ・ 組織の中の支援者としてのスキルを磨くためのプログラムでした。
- ・ メンバーからのフィードバックをもらうことで、プロセスを見ているようで見ていない自分に気づくことができた。

人と社会のつながりを生み出すコミュニティづくり

～多様な人々との対話を促すコミュニティ・ファシリテーターになろう！～

少子高齢化、人口減少、経済の行き詰まり、格差の拡大、自然災害の増大、通信技術の発達に伴う人間関係の希薄化など、今日の日本社会はさまざまな社会問題を抱えています。2020年には世界中で新型コロナウイルス感染症が蔓延し、人と人のつながりにも影響を与えています。

目の前の問題、そして予測不可能な未来に対して、わたしたちができることは何でしょうか？どうしたらわたしたちは誰もが大切にされ、尊重される社会でその人らしく生きていくことができるでしょうか。

わたしたちは考えます、その場に集う人々が交わり、対話を通して見出していくことが重要なのではないかと。そのためには、人と人をつなぎ、その場をつくるファシリテーターが求められるのではないかと。

コミュニティは「共同体」を意味します。「共同体」とは、利害を共にする組織、否、運命を共にする「仲間」といってもいいのではないのでしょうか。

本講座では、「コミュニティ」を広義にとらえ、そこで起こっているさまざまなプロセスをとらえ、多様な人々との対話を促すコミュニティ・ファシリテーションを学びます。自分自身の持ち味を生かしつつ実践するファシリテーションとは何か。コミュニティで実践するワークショップはどのようにデザインするか。プロトタイプをつくり、コミュニティで実践を試みるフィールドワークをどうトライアルするか。同じ思いをもつ「仲間」が集まり、共にコミュニティ・ファシリテーションを探求しましょう。



「コミュニティ」の位置づけ

コミュニティづくりの講座が扱う「コミュニティ」とは地域社会や人の集まりという一般的な意味よりも広義に捉え、個人、チーム・組織を包括するものを対象にしています。

このようなことを目指している方にお勧めします

- 自分自身や所属するコミュニティ（組織や団体など）に対して問題や課題を感じ、乗り越えたいと思っている人
- 現在および未来の社会に対して問題意識をもち、より良くしたい人
- 組織やコミュニティのなかで、自分のリソースを社会のために役立てたいと思っている人
- SDGs 達成に関心を持ち、貢献したいと思っている人
- 多様な人々との共生のために、対話を促進したい人
- 今起こっていること（プロセス）を把握する力を養いたい人



人と社会のつながりを生み出す
コミュニティづくり・入門講座

開催
検討中

コミュニティを デザインする

今、コミュニティで何が起きているかを小講義や実践事例報告から知ります。それを踏まえて、参加者が所属するコミュニティでどのような未来を目指したいのか、その未来でどのような活動をしたらいいかを探求していきます。

自分が属するコミュニティが自分や家族に与えている影響を考え、コミュニティの中でどうかかわっていくかを考えます。

入門講座：第1回 コミュニティをデザインする

日程	未定
担当者	未定
定員	未定
会場	未定
参加費	未定



人と社会のつながりを生み出す
コミュニティづくり・応用講座

開催
検討中

コミュニティ・ファシリテーターの 道具箱

この講座では、コミュニティを構成する多様な価値観や考えを持つ人々が、それぞれの持ち味を生かし合うために、必要な働きかけや支援を理解するとともに、その際に知っておくとよい知識や技術である、「コミュニティ・ファシリテーターの道具」を学びます。コミュニティ活性化や支援の現場で、実際に役立った対話の手法を体験談とともに紹介します。ファシリテーターとして活動していない人も、その視点や姿勢、機能を学び、普段の人間関係に役立てることができます。

応用講座：第1回 コミュニティ・ファシリテーターの道具箱

日程	未定
担当者	未定
定員	未定
会場	未定
参加費	未定



人と社会のつながりを生み出す
コミュニティづくり・入門講座

開催
検討中

コミュニティ・ ファシリテーションとは

現代社会で生み出される複雑で解決困難な社会問題を解決し、一人一人が自分らしく生きる社会を創造するためには、コミュニティで起きていることをとらえ、そこに生きる多様性のある人々との対話・交流の場をつくり、対話を促進する「コミュニティ・ファシリテーター」の存在が不可欠です。この講座では、コミュニティで起きているさまざまな課題解決のために、コミュニティ・ファシリテーションの機能と役割、コミュニティでの活かし方を学びます。

第2回 コミュニティ・ファシリテーションとは

日程	未定
担当者	未定
定員	未定
会場	未定
参加費	未定



人と社会のつながりを生み出す
コミュニティづくり・応用講座

開催
検討中

プロジェクト・イシューを 考える

この講座では、K.レヴィンの「場の理論」を紹介し、現状の事象を「力の場の分析 (Force Field Analysis)」を活用して、捉え直してみます。何が課題なのか、現状を改善するために何ができるのか、プロセスの見方、場のつくり方を体験的に学びます。コミュニティ・ファシリテーターとしての視点や姿勢、大切にしたい価値観を理解し、複雑で多岐にわたるコミュニティの課題を解決するためにその場で起きている現象を把握する力と、解決に結びつける場のつくり方を学びます。

応用講座：第2回 プロジェクト・イシューを考える

日程	未定
担当者	未定
定員	未定
会場	未定
参加費	未定

※参加者のコミュニティづくりを目指し、グループでの体験を主体とした学習のため、原則的に2日間ご参加いただく必要があります。



人と社会のつながりを生み出す
コミュニティづくり・実践講座

開催
検討中

ワークショップ・デザイン： 対話の場をつくる

この講座では、「ワークショップ・デザイン」を学びます。1日目は、ワークショップの歴史と概念、ワークショップ・デザインの考え方を、2日目は、参加者の主体性と参加者同士の相互作用を生み出すワークショップにするためのプログラム作りからファシリテーションの実施までのプロセスを体験します。自分たちで検討したワークショップのプログラムの一部を実施し、お互いにフィードバックし合い、ファシリテーターとしての姿勢、参加者に対する働きかけや介入の方法を学びます。

実践講座：第2回ワークショップ・デザイン： 対話の場をつくる

日程	未定
担当者	未定
定員	未定
会場	未定
参加費	未定

※グループ体験を通して学習を深めていくため、原則的に2日間ご参加いただく必要があります



人と社会のつながりを生み出す
コミュニティづくり・発展講座

開催
検討中

フィールドワーク：コミュニティ・ ファシリテーションを実践する

この講座では、参加者でチームをつくり、コミュニティの現場に出向き、フィールドワークをします。インタビューや現地調査をし、コミュニティのニーズや課題を把握し、当事者が望むコミュニティを実現するために何を目的に、誰を対象に、どのような働きかけをしたらいいかを、チーム内で検討、プログラムを構築、そして現場で実践してみます。実施後にブラッシュアップのために互いにフィードバックし合います。この講座を通して知り合った参加者と互いに応援し合える仲間づくりやネットワークづくりの機会になることを期待しています。

発展講座：第2回ワークショップ： コミュニティ・ファシリテーションを実践する

日程	未定
担当者	未定
定員	未定
会場	未定
参加費	未定

※グループ体験を通して学習を深めていくため、原則的に2日間ご参加いただく必要があります



- P.25 コミュニティをデザインする
- P.25 コミュニティ・ファシリテーションとは
- P.04 ラボラトリー体験学習基礎講座
- P.06 Tグループ(人間関係トレーニング)
- P.25 コミュニティ・ファシリテーターの道具箱
- P.25 プロジェクト・イシューを考える
- P.26 ワークショップ・デザイン：対話の場をつくる
- P.26 フィールドワーク：
コミュニティ・ファシリテーションを実践する
- P.27 インタープリター・トレーニング
- P.29 体験学習実践研究会
- P.29 ラーニング・カフェ for CHANGE



人と社会のつながりを生み出すコミュニティ作り・発展講座

インタープリター・トレーニング

～環境教育実践からSDGs実現をめざす～

開催
検討中

環境教育は、自然環境に焦点を当てた自然系、一方公害やエネルギー問題にかかわる生活系、また国際理解教育や多文化・異文化共生にかかわる地球系と呼ばれるような領域が、今日では深くつながりをもちながら実践されてきています。

2015年9月には、「持続可能な開発目標(SDGs)」が国連で採択されました。すべての国連加盟国が、経済・社会・環境の側面を包括的に推し進めながら、2030年までに目指すべき到達点として生まれた「世界レベルの社会的契約」ともいえます。もちろん、日本も加盟国です。

SDGsは、17個の目標(図参照)にまとめられ、各目標の下には169の「ターゲット」が掲げられています。

JIELが2017年より「ESDスペシャリスト育成プロジェクト」として取り組んできたESD(Education for Sustainable Development)実践者の養成やSDGs達成にむけて活動できるチェンジ・エージェント(変革推進者)の育成の理念に基づき、2019年度からインタープリターを育成する本講座が開講されました。

インタープリターとは、自然や文化など目に見えるモノを通して、目に見えないもの(自然界や歴史、価値や態度など)を伝える(もしくは学んでもらう)人を指し、自然と人、人と人をつなぐ仕事とされています。

環境教育は、人間を取り巻く自然環境、人為的な環境と人間との関係を取り上げながら、未来に渡り全地球の人々が幸せな生活を営むことができるように私たち人間がどのようなかわりをするとういのかを理解し、行動できるように学んでいくことを目指しています。

本講座では、清里の自然をふれあう体験を通して、環境教育のめざす理念や目的を理解すると共に、環境教育の実践者(インタープリター)体験を通して、学びの場を創る担い手になるトレーニングを目指しています。学びの場づくりには、ラボラトリー体験学習の理論と実践は欠かせません。清里の自然と美味しい地産地消のお料理を楽しみながら、インタープリターとラボラトリー体験学習を学ぶ講座に、ご参加ください。

※テキストは「インタープリター・トレーニング～自然・文化・人をつなぐインタープリテーションへのアプローチ」津村・増田・古瀬・小林編(ナカニシヤ出版)を使用します。

インタープリター・トレーニング ～自然・文化・人をつなぐインタープリテーションへのアプローチ～



津村俊充・増田直広・古瀬浩史・小林毅編
ナカニシヤ出版
●B5判 198ページ
●定価 2,750円(税込)
●2014年12月10日発行

「インタープリテーションとは何か」を自然や文化や歴史などの対象とオーディエンスの間に立って、参加者の新たな知識体系構築のための促進者となりたいと思う人たちのためのトレーニング教本。

第4回インタープリター・トレーニング

日程	未定
担当者	未定
定員	未定
会場	未定
参加費	未定
滞在費	未定

※宿泊型のプログラムのため、上記施設にご宿泊いただけます。また、グループワーク体験を通じた学習のために、全日程にご参加いただく必要があります。滞在費は、現在、施設と交渉中です。多少変更があるかもしれません。



未来は「今」だ！ ESD スペシャリスト育成プロジェクト 第3期を始動します！

開催
検討中

今、世界では、貧困、人権、平和、経済、不平等など、さまざまな地球規模の問題が起こっています。人間を含めた生物が、命の営みを続けていくことができるように、これらの課題を自らのこととして、身近なところから実践する ESD (Education for Sustainable Development: 持続可能な開発のための教育) が進められています。ESD は、課題解決につながる新たな価値観や行動を生み出し、持続可能な社会の創造を目指します。

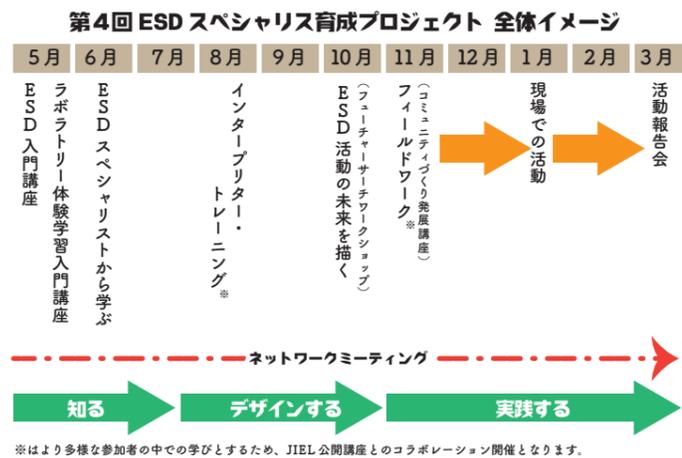
JIEL では 2017 年より ESD スペシャリスト育成プロジェクトとして、さまざまな社会問題に立ち向かう、ESD の実践者 (Change Agent) の育成に取り組んでいます。現在までに 2 期、約 30 名が修了され、学んだことや仲間のネットワークを活かして、全国各地のさまざまなフィールドで活躍されています。

コロナ禍にあって、人とのつながりを制約される中、柔軟な発想でつながりを生み出す力、どのような事態におちいても自分に何ができるかを考え困難な状況を切り拓く力、自分や仲間のリソースを活かしてコラボレーションを促進する力を持つ、チェンジエージェントを育成します。第 4 期 ESD スペシャリスト育成プロジェクトを再始動します！

【プロジェクトの構成と流れ】

ESD スペシャリスト育成プロジェクトは、①「知る」、②「デザインする」、③「実践する」、の大きく 3 つの категория で組み立てられ、全 9 回の活動を予定しています。

体験からの学びや参加者同士の関係を深めるために、全講座に参加することをお勧めしますが、関心のあるテーマを選んで、参加することもできます。



第 4 回 ESD スペシャリスト育成プロジェクト

カテゴリー	講座名 / 開催形態・場所	日時	参加費 (税込)
1	未定	未定	未定
2	未定	未定	未定
3	未定	未定	未定
4	未定	未定	未定
5	未定	未定	未定
6	未定	未定	未定
7	未定	未定	未定
8	未定	未定	未定
9	未定	未定	未定

※表中の参加費 (税込) は、各回にお申し込みの場合の金額です。

※第 3 回 ESD スペシャリスト育成プロジェクトとして全講座参加を希望しお申し込みをされる方は、全コース通しの参加費として、55,000 円 (税込) の割引価格で本プロジェクトのプログラムを提供いたします。

ラーニングカフェ FOR CHANGE

会場	オンライン開催 zoom
参加費	500 円 (税込)

日本体験学習研究所 (JIEL) では、実験的・冒険的試みとして、古くは 1930 年代より、K. レヴィンをはじめ多くのラボラトリー体験学習の研究者が実践した、対話・交流の場を開催しています。あるテーマに沿って、自分の想いを語り、他者の言葉に耳を傾け、自由に楽しく対話をしながら、多様な人々との相互理解が生まれる場を創っています。

2022 年度のラーニングカフェ FOR CHANGE の開催予定日 (各回とも 20:00 ~ 21:30)

第 81 回	2022 年 4 月 8 日 (金)	第 85 回	8 月 5 日 (金)	第 89 回	12 月 9 日 (金)
第 82 回	5 月 11 日 (水)	第 86 回	9 月 14 日 (水)	第 90 回	2023 年 1 月 11 日 (水)
第 83 回	6 月 17 日 (金)	第 87 回	10 月 14 日 (金)	第 91 回	2 月 10 日 (金)
第 84 回	7 月 13 日 (水)	第 88 回	11 月 9 日 (水)	第 92 回	3 月 8 日 (水)

体験学習実践研究会

会場	オンライン開催 zoom
参加費	1,000 円 (税込)

この研究会は、さまざまな領域で人とのかかわる力の育成や人間関係づくりに関心をもつ人々が集まり、『体験学習』のための実践教材の体験をしたり、研修教材開発やプログラムの設計・展開に関する討論を行っています。人間関係力の育成や人間関係づくり、特に「体験」を通して学びの場を創ることに関心をお持ちの方なら、どなたでも参加できます。

2022 年度の体験学習実践研究会の開催予定日 (各回とも 13:30 ~ 16:30 / 11 月 27 日のみ 13:30 ~ 17:30)

第 48 回	2022 年 5 月 14 日 (土)	第 50 回	7 月 2 日 (土)	第 52 回	10 月 1 日 (土)
第 49 回	6 月 11 日 (土)	第 51 回	9 月 3 日 (土)	第 53 回	11 月 27 日 (日)
				第 54 回	2023 年 2 月 4 日 (土)

AI アプローチ 実践研究会

会場	オンライン開催 zoom
参加費	1,000 円 (税込)

2022 年度の AI アプローチ実践研究会の開催予定日 (各回とも 13:00 ~ 16:00)

第 33 回	2022 年 5 月 22 日 (日)
第 34 回	7 月 3 日 (日)
第 35 回	10 月 2 日 (日)
第 36 回	2023 年 2 月 12 日 (日)

JIEL 主催の AI アプローチ基礎講座に参加されたメンバー (AI プラクティショナー) が定期的に集まり、自身の実践の報告や現在進行形のチームや組織の活性化に向けた働きかけなどを巡って、自由に話し合う研究会です。

チェックイン的近況報告から始まり、次に、今の関心事をアジェンダに出して、自由気ままな対話の時間を過ごします。あふれんばかりの刺激的な話を語り合いながら、充実した時間を過ごしています。

是非、JIEL 主催の AI 基礎講座にご参加いただき、AI 実践研究会の仲間になってください。

ナラティブ・コル 読書会

会場	オンライン開催 zoom
参加費	1,000 円 (税込)

KORU (コル) とは、マオリ語でシダの新芽を指します。「新生」「成長」「力」「平和」の象徴だと言われています。Narrative Koru (ナラティブ・コル) とは、ナラティブ・セラピーのさまざまな可能性を感じ、学び合い、成長し合っていくコミュニティです。ナラティブ・セラピーに関心のある方なら、どなたでもご参加いただけます。

2022 年度の開催日程は、WEB ページや Facebook ページでご確認ください。



受託研修（コンサルテーション）

→
JIEL
公式サイト
www.jiel.jp

日本体験学習研究所（JIEL）では、学校教育現場、企業など組織内研修、看護医療現場での医療従事者の研修、NGO・NPO・コミュニティでの研修など幅広いジャンルの現場から研修依頼をいただき、各機関のご要望にお応えしています。これまでコミュニケーション、グループワーク、チームづくり、組織開発など人間関係から生み出されるグループダイナミクスを活かす研修を提供し、ご好評をいただいています。さまざまな機関のご要望を聞き取り、ニーズにあったオリジナルのプログラムのデザイン・実施から、それぞれの機関の変革のためのコンサルテーションまでご相談・ご依頼をお引き受けしています。

研修・ご相談についてのご質問、ご依頼は、まずはお気軽に JIEL 公式サイトよりお問い合わせください。

2020 年度研修（コンサルテーション）実績（順不同）

依頼機関	受託研修プログラムタイトル
生涯学習ネットワーク中部	令和2年度生涯学習相談員ボランティア養成講座 「コミュニケーションとは」～価値観について～ 「聴く」 「グループワークを通して」
生涯学習ネットワーク中部	令和2年度生涯学習アドバイザー研修会 「価値観とは」～話のアプローチ～
社会福祉法人 昭徳会（日本福祉大学）	令和2年度生涯学習アドバイザー研修会 「価値観とは」～話のアプローチ～
愛知県総合教育センター	令和2年度特別支援学校10年経験者研修 「人間関係づくりトレーニング」
名古屋市北区自立支援連絡会	令和2年度事業所部会研修会 「自他ともに尊重するコミュニケーション」
一般財団法人こまき市民文化財団 こまなびサロン	令和2年度生涯学習人財育成講座 「まるっと一日！講師スキルアップ講座」
名古屋市緑生涯学習センター	女性セミナー 第5回「私らしさを大切に」 ～家庭や職場で生かす「アサーティブ・コミュニケーション」～
名古屋市消防学校	係長クラス「リーダーシップ研修」
名古屋市消防学校	主任クラス「リーダーシップ研修」
東京女子医科大学病院 3施設合同	リーダーシップII研修、フォロー研修、まとめ研修
東京女子医科大学病院 3施設合同	リーダーシップII研修 1年後のフォロー研修
虎の門病院	プライマリ・ナーシング入門コース（集中研修）

DVD「つんつんのミニレクチャー 32講」

ラボラトリー方式の体験学習の基本的な考え方をお伝えする動画を作成しました。体験だけの学習に終わらないために、体験後の内省と気づきの概念化が大切です。その手助けになるのが、認知地図(cognitive map)です。体験学習参加者の皆様に、ホットな体験とクールな概念をこの動画を通してつなげていただくと幸いです。



つんつんのミニレクチャー 全4巻

企画・著作・出演 津村 俊充（JIEL 代表理事・所長）
撮影・制作 津村 勇一郎（ツムラオフィス）
定 価 全4巻セット 下記価格表参照
発 行 2017年1月1日

ラボラトリー方式の体験学習に関わる基本的な考え方を、4つのジャンル『ラボラトリー教育基礎編』、『コミュニケーションとグループ編』、『ファシリテーター編』、『Tグループ編』に分け、計32本の動画にまとめました。

ラボラトリー方式の体験学習を用いた「人間関係づくりファシリテーション」の実践を行われている方、さまざまな領域の教育や組織開発に関わる方は必携です。

第1巻 ラボラトリー教育基礎編

「人間関係づくりファシリテーション：人間関係とは」
「ラボラトリー方式の体験学習とは」
「ラボラトリー体験学習から学ぶために」
「関係を観る視点：コンテンツとプロセス（個人レベル）」
「ジョハリの窓（The Johari Window）に学ぶ」
「フィードバックを受け与える」
「グループの意思決定のスタイル：コンセンサス」
「社会的相互作用の循環過程」

第2巻 コミュニケーションとグループ編

「コミュニケーションのプロセスモデル」
「コミュニケーションの障害要因は」
「コミュニケーションの働きと聴くこと」
「グループの中で何を観るか」
「グループの発達：ギブの懸念モデル」
「グループの発達：シュッツの理論」
「グループの発達：タックマンモデル」
「K.レヴィンの変化モデル：ギブの懸念を活用する」
「リーダーシップ研究の流れ」

第3巻 ファシリテーター編

「体験学習のふりかえりとファシリテーターの働き」
「コルブモデルの体験学習のステップと期待される効果」
「体験学習のステップを多面的に考える」
「実習教材を用いたファシリテーションガイドライン」
「2つのプロセスに働きかけるファシリテーター」
「E.シャインのORJIモデル」
「W.B.レディのプロセスコンサルタントの働きかけ」
「教育者養成に向けての視点とアプローチ」

第4巻 Tグループ編

「Tグループの誕生と日本における変遷」
「Tグループの変化：誕生から今日」
「Tグループと対話型OD」
「K.レヴィンの人間観」
「TグループとBEGとの比較」
「エントリーとリエントリー」
「グループワークがもたらす効果」

「つんつんのミニレクチャー」DVD全4巻 販売価格（税込）

個人の学習のために利用	JIEL 主催研修に参加	個人支払い（領収書個人名）	17,600円
		法人・企業支払い（領収書法人名）	35,200円
研修時に再生利用	JIEL 主催研修未参加	個人支払い（領収書個人名）	35,200円
		法人・企業支払い（領収書法人名）	70,400円
	JIEL 主催研修会参加にかかわらず	個人・法人・企業にかかわらず	704,000円

※ 複製および営利目的での動画のご使用はかたくお断りします。
※ JIEL 主催研修にご参加いただいた方に限らせていただきます。

■ 代表理事・所長

津村 俊充 (南山大学名誉教授)



さまざまな教育現場や組織開発への体験学習の導入・普及に関心をもつ。マサチューセッツ大学教育学大学院にてセルフサイエンスを学ぶ。同時にNTLにてラボラトリー方式の体験学習のトレーナートレーニングを受ける。NTL主催のAppreciative Inquiry Approachによる「Designing Experiential-Based Learning」のプログラムなどに参加し、対話型組織開発に関心をもつ。2011年に、日本人では初めてNTL Institute インターナショナルメンバーとなる。

■ 研究員 (アルファベット順)

秋山 善克



これまで複数のメーカーでエンジニアとして専門技術によるモノづくり支援に従事。技術的に的確なことが、心理要因で有効活用されにくい状況を、Tグループ、組織開発の源流にある哲学や原理をベースとして、人の感情や認識などヒューマンプロセスに働きかけることでアプローチしている。

林 芳孝



人はいかにしたら幸福になれるか、どうしたら生きがいを得られるか、人生を意味あるものとして終えていけるか。ポジティブ心理学や幸福学を中心に心理学の視点から探究し、得た知見をベースに、体験学習によるファシリテーション実施、プログラム開発を行っています。

岸田 美穂



人との出会いから豊かな気づきや学びが生まれる。グループの活動を通して、メンバーの意識や行動が変化し、グループ自体も成長していく。一人ひとりのもちあじをいかしあう、チームや組織づくりを探索し続けている。

水野 節子



自己尊重のコミュニケーションの方法であるアサーションやアサーティブであるために役立つNVCの研究と実践に取り組む。対人援助、リーダーシップ、クレーム対応、いじめ防止など幅広い研修にこれらを応用している。

西森 真紀



成果も関係性も大切に作る組織づくりと、働く人の幸せ向上を支援。体験学習を軸に、ナラティブ・アプローチとポジティブ・アプローチを取り入れた対話の場づくりや研修を行っている。ディスコース重視の組織変革・組織開発とAppreciative Leadershipについて探求中。

■ 名誉研究員

星野 欣生 (南山短期大学名誉教授)



家庭裁判所調査官、ビジネスコンサルタントを経て、現在、南山短期大学名誉教授。米国SIT(School for International Training)にて体験学習の教授・学習過程を研究。NTLでラボラトリーメソッドによる体験学習の基礎と実践応用を学ぶとともに、トレーナートレーニングを受ける。生涯学習、組織開発、とりわけ組織内教育や組織内教育のトレーナー養成を専門とする。

後藤 雅子



健康に暮らすための関わりから、その人らしく日々を過ごすために、ともに考え、ともに学び続けている。協同教育の理念を用いた健康教育をとおして、その人らしくあることと健康とを結びつける活動を行っている。

垣内 芳文



中小企業診断士として経営支援の現場でイキイキとした組織づくりとビジネス的な成果の両面を支援。近年では働き方改革の現場支援やリーダー研修においてもAIの要素を導入し、企業に活力と成果をもたらす職場づくりをクライアント様とともに探求している。

國武 恵



教員の経験を生かし、子どもたち自身の関係づくりに役立つ実習の開発やファシリテーションの研修を中心に活動している。他者より豊かに関わりながら自分らしく生きることを支援していきたい。また、自分もそうありたいと考えている。

中里 高宏



一人の子どもの親として、企業研修ファシリテーターとして、学ぶものとして、体験学習と向き合い続けています。体験学習を取り入れた人材教育研修にポジティブアプローチ、ナラティブアプローチの要素を取り入れ、組織を社会を支援する探究を行っています。

岡田 衣津子



さまざまな社会的な課題を住民自身が発見し、解決する「住民主体のコミュニティづくり」に関心をもつ。地域コミュニティ活性化、多文化共生のための対話・交流の場をコミュニティの中に醸成し、住民一人ひとりのエンパワメントの向上を目指した支援を行っている。

園木 紀子



ナラティブ・セラピーWSinNZへの参加をきっかけに「人が生きていく力をそれぞれに持つことができる世界を作る」ことを目指したいと考えている。ナラティブ・セラピーのアイデア、実践、姿勢、哲学、思想的な背景にあるものを理解することでラボラトリー体験学習を学んでいる人たちと共に学ぶ場を、さらに豊かなものにしと考えている。

鈴木 由子



看護師の経験を生かして、医療・福祉の現場で、教育、人材育成にAI(Appreciative Inquiry)アプローチの視点を持って活動しその普及も目指している。また、いかに自分の感情やニーズを理解した上で、自分らしくコミュニケーションを行うかについて学び続けている。

JIELヤングフェローズ制度

日本体験学習研究所(JIEL)では、ラボラトリー方式の体験学習の実践研究を担う次世代のファシリテーターの養成を目的としたヤングフェローズ制度を設けています。要件として、30代までの方で、JIEL主催もしくは他団体の5泊6日のTグループに参加された方としています。2020年度は、5名のヤングフェローズが所属していました。



受講申込

[1] 受講申込

お申込方法

基本的にはWEBページから申込みをお願いします。

お申込後の講座参加者の変更

公平を期すために、個人名での申込みのみとさせていただきます。団体名での申込及び申込後の参加者の変更はお断りしています。

[2] 受講料の振込

- ①原則E-mailにて振込依頼を送付いたします。記載されている受講料を指定の銀行口座へお振込ください。
- ②期限内にご入金を確認できない場合は、キャンセルされたものとみなしますので、ご注意ください。

<振込先>	口座番号	名義
三菱UFJ銀行 平針支店 (店番095)	(普) 0159782	一般社団法人日本体験学習研究所 代表理事 津村俊充
郵便局 普通口座	記号 12180 番号 757301	シヤ)ニホンタイケン ガクシュウケン キュウジョ

注)申し込んでから数日たっても振込依頼のメールが届かない場合は、お手数ですがご連絡ください。

[3] 受講案内

受講料の入金確認後、原則E-mailにて受講案内等をお送りします。振込後、1週間以内に届かない場合はご連絡ください。

[4] 開講日

- ①各講座の日程に合わせて、指定の会場までお越しください。講座ごとに、開講日、時間、会場は異なります。お間違いないよう充分にご確認ください。
- ②オンライン開催の場合は、事前にZoom URLをお知らせします。
- ③テキストの必要な講座は、初日に受付にて販売いたします。

[5] キャンセル連絡とキャンセル料について

受講料入金後の場合	受講料の20% (各講座上限1万円) +振込手数料
当研究所受付日が講座開始 10日前~3日前の場合	受講料の50% +振込手数料
当研究所受付日が講座開始 2日前~当日の場合	受講料の全額 (返金なし)

注1:受講をキャンセルされる場合は、早急にご連絡をください。当研究所事務局受付時間外にE-mailにてキャンセルをいただく場合は、翌事務受付日扱いでキャンセル処理をいたします。あらかじめご了承ください。

注2:宿泊講座の滞在費については、各宿泊施設のキャンセルポリシーに基づきご返金対応をいたします。

[6] 講座の中止について

申込者が規定の人数に満たない場合、天候や自然災害、交通事情などの影響のある場合、担当講師の避けられない事情が発生した場合、開講を中止することがあります。当研究所の理由により講座を中止する場合は、入金された受講料を全額ご返金いたします。

2022-2023 年間スケジュール ver.1 (2022/01時点)

コア・プログラム

主体的に人生を切り開く・支援

生き生きとしたチームや組織づくり・支援

人と社会のつながりを生み出すコミュニティづくり・支援

2021/4 April	5 May	6 June	7 July	8 August	9 September	10 October	11 November	12 December	2022/1 January	2 February	3 March
1 金	1 日	1 水	1 金	1 月	1 木	1 土	1 火	1 木	1 日	1 水	1 水
2 土	2 月	2 木	2 土	2 火	2 金	2 日	2 水	2 金	2 月	2 木	2 木
3 日	3 憲法記念日 火	3 金	3 日	3 水	3 土	3 月	3 木	3 土	3 火	3 金	3 金
4 月	4 みどりの日	4 土	4 月	4 木	4 日	4 火	4 金	4 日	4 水	4 土	4 土
5 火	5 こどもの日	5 日	5 火	5 金	5 月	5 土	5 土	5 月	5 木	5 日	5 日
6 水	6 金	6 月	6 水	6 土	6 火	6 日	6 日	6 火	6 金	6 月	6 月
7 木	7 土	7 火	7 木	7 日	7 水	7 月	7 木	7 土	7 土	7 火	7 火
8 金	8 日	8 水	8 金	8 月	8 木	8 日	8 火	8 木	8 日	8 水	8 水
9 土	9 月	9 木	9 土	9 火	9 金	9 日	9 水	9 金	9 月	9 木	9 木
10 日	10 火	10 金	10 日	10 水	10 土	10 月	10 木	10 土	10 火	10 金	10 金
11 月	11 水	11 土	11 月	11 木	11 日	11 火	11 金	11 日	11 水	11 土	11 土
12 火	12 木	12 日	12 火	12 金	12 月	12 水	12 土	12 月	12 火	12 日	12 日
13 水	13 金	13 月	13 水	13 土	13 火	13 木	13 日	13 火	13 水	13 月	13 月
14 木	14 土	14 火	14 木	14 日	14 水	14 金	14 月	14 水	14 火	14 火	14 火
15 金	15 日	15 水	15 金	15 月	15 木	15 土	15 火	15 木	15 日	15 水	15 水
16 土	16 月	16 木	16 土	16 火	16 金	16 日	16 水	16 金	16 月	16 木	16 木
17 日	17 火	17 金	17 日	17 水	17 土	17 月	17 木	17 土	17 火	17 金	17 金
18 月	18 水	18 土	18 月	18 木	18 日	18 火	18 金	18 日	18 水	18 土	18 土
19 火	19 木	19 日	19 火	19 金	19 月	19 水	19 土	19 月	19 木	19 日	19 日
20 水	20 金	20 月	20 水	20 土	20 火	20 木	20 日	20 火	20 金	20 月	20 月
21 木	21 土	21 火	21 木	21 日	21 水	21 金	21 月	21 水	21 土	21 火	21 火
22 金	22 日	22 水	22 金	22 月	22 木	22 土	22 火	22 木	22 日	22 水	22 水
23 土	23 月	23 木	23 土	23 火	23 金	23 日	23 水	23 金	23 月	23 木	23 木
24 日	24 火	24 金	24 日	24 水	24 土	24 月	24 木	24 土	24 火	24 金	24 金
25 月	25 土	25 火	25 月	25 木	25 日	25 火	25 金	25 日	25 水	25 土	25 土
26 火	26 日	26 水	26 火	26 金	26 月	26 木	26 土	26 月	26 木	26 日	26 日
27 水	27 金	27 月	27 水	27 土	27 火	27 木	27 日	27 火	27 金	27 月	27 月
28 木	28 土	28 火	28 木	28 日	28 水	28 金	28 月	28 水	28 土	28 火	28 火
29 金	29 日	29 水	29 金	29 月	29 木	29 土	29 火	29 木	29 日	29 水	29 水
30 土	30 月	30 木	30 土	30 火	30 金	30 日	30 水	30 金	30 月	30 木	30 木
	31 火		31 日	31 水		31 月		31 土	31 火		31 金

第27回
ラボラトリー
基礎講座
@ONLINE

第21回
Tグループ
@御岳

第22回
Tグループ@清里

第28回
ラボラトリー
基礎講座
@ONLINE

INDEX・概要
コア・プログラム
公開講座
主体的に人生を切り開く・支援
生き生きとしたチームや組織づくり・支援
人と社会のつながりを生み出すコミュニティづくり・支援
ESDスペシャリスト 育成プロジェクト
交流から学ぶ DVD紹介 受託研修 スタッフ紹介 受講申込 年間スケジュール